

# 令和2年度事業実績報告 ~~(案)~~

自：令和2年4月 1日  
至：令和3年3月31日

## 目次

- ・事業実施状況並びに期末評価
- ・事業別利用実績
- ・年度別利用率の推移
- ・利用者の状況
- ・事業・職種別職員数一覧
- ・職員の動向等
- ・施設外研修一覧
- ・施設内研修一覧、資格取得状況一覧
- ・外部実習受入及び地域交流等の状況
- ・苦情解決
- ・地域包括支援事業（上越市受託事業）

社会福祉法人 上越頸城福社会  
しおさいの里等複合施設

特別養護老人ホームしおさいの里  
障害者支援施設           さいはま園  
デイサービスセンターゆりかご荘  
しおさいの里居宅介護支援事業所  
しおさいの里地域包括支援センター

## 令和2年度 事業実施状況ならびに期末評価（案）

### 1-1) しおさいの里等複合施設全体

事業目標：福祉制度や分野を越えた新たな枠組みや連携の仕組みを検討するなかで、複雑で多様な生活課題を抱える地域住民や福祉サービス利用者のニーズに応じていきます。

重点目標1. 上越頸城福祉会版「地域包括ケアシステム」の構築を目指します。

重点目標2. 時代に応じたケア体制の構築を目指します。

重点目標3. 人材の確保ならびに生産性の向上と安心して働ける職場環境の構築を目指します。

取組事項	実施状況・期末評価
<p>①法人内（しおさいの里事業部・夕映えの郷事業部間）での横断的な組織運営の在り方について、法人本部機能の再編とともに継続して協議を進めていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6/11の理事会において、法人本部機能の再構築に向けたたたき台案が示され、その後の調整を経て、新たな組織規程等が見直され、8/7の理事会において承認された。新たな本部体制の下、法人経営会議、法人管理職会議等により夕映えの郷との情報共有に努めている。</li> <li>・しおさいの里と夕映えの郷での人事交流の一環として、12/1付で職員1名をしおさいの里事業部から夕映えの郷事業部へ配置転換を行った。</li> </ul>
<p>②今年度からの上越市地域包括支援センターにおける相談機能の拡充（障がいのある人及び生活困窮者）に効果的、効率的に対応するため、法人内相談支援部門（居宅介護支援事業所、夕映えの郷）を含めた連携体制を強化します。具体的には、拠点包括支援センター（大潟くらし支援室）の配置場所等について検討していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターでは、新たに業務追加された障害者（ひきこもりの人を含む）に関する相談と生活困窮に関する相談について、住民や福祉関係者への周知が進み、相談件数が徐々に増加してきている。中途障がい者の特性で障がいを受容しきれていないことが多く、利用者本人がどうしたらいいのか意思が決まっていないため、伴走の時間（期間）が長く、ゆっくりになり、包括全体の業務を圧迫してきている状況にある。</li> <li>・地域包括支援センターにおいて、障がい者相談支援の見識を広め相談機能の質を高める取り組みとして、6月より障がい福祉サービス事業所の見学に回り、頸北地域の障がい福祉分野の社会資源の把握に努めている。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で夕映えの郷・しおさいの里相談職連携会議（以下、夕映えの郷との連携会議）は4、5月は中止したが、6月から再開している。会議では4月からの障がい相談状況や市の情勢、各事業所の現況等を出席者で共有している。下半期は研修を企画し、分野を超えて共に学ぶことを通じて相互理解と連携強化を図った。</li> <li>・高齢の親の支援で居宅介護支援事業所の介護支援専門員が担当し、その子への支援で相談支援事業所の相談支援専門員が担当するケースでは、それぞれの専門職が意思疎通を図り、双方のサービスが連動するように調整していくことが求められ、世帯全体の調整として地域包括支援センターが役割を担って支援している。</li> <li>・法人内の高齢・障がいの知識や経験、専門性を最大限生かしながら協働する仕組みづくりの一環として拠点包括支援センター大潟くらし支援室を法人本部がある当複合施設内に移転することで、利用者に対して最大限のメリットが発揮できる体制を検討し、8月～9月にセンターを統括する上越市すこやかなくらし包括支援センターに趣旨説明を行った。市の見解としては、趣旨に理解を示した一方で、行政との連携や住民サービスの低下につながらないようお互いに時間をかけて慎重に検討していく必要があるのではないかと意見を受ける。結果、今の受託期間内での移転計画は保留とした。ただし、移転計画と並行して検討していたセンター機能強化のための配置体制の見直しについては大潟・頸城両区総合事務所への説明を経て12/1付けで実施し、大潟4名、頸城2名の6人体制とし、職員1名は夕映えの郷へ異動した。</li> <li>・一方、さいはま園では、今年度に夕映えの郷相談支援事業所から、2名の障害者を短期入所として受け入れた。当園は、主な対象者と身体障害者と位置づけているが、精神障害を持つ方を受け入れた。1名の方は、身体障害と医療的ケアも要する方であり、当</li> </ul>

<p>③高齢障がい者と障がい高齢者それぞれの特性を踏まえつつ、地域共生社会の視点に立ったケア体制について引き続き検討し、実践します。今年度は、デイサービスセンターにおいて障害福祉サービス（基準該当生活介護）の体制を整備し、地域のニーズに対応していきます。</p>	<p>園の強みも生かせたと思われる。また、継続的な利用にもつなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスセンターでは、4/1付けで基準該当生活介護の指定を受け、地域のニーズに応えられるよう現場レベルでの準備を進め、6月には頸城区内で基準該当生活介護サービスを提供しているデイサービスセンター2か所に生活相談員3名が見学に行き、実際の現場に触れてきた。また今年度より夕映えの郷との連携会議の参加者に加わり、障がい分野の相談支援専門員や専門職員と顔の見える関係性を築き、連携促進に取り組んだ。またサービス管理責任者研修に相談員2名が受講し、人材育成にも取り組んだ。</li> <li>・7月に入ってから夕映えの郷より基準該当生活介護サービスの利用相談が2件あり、担当者間で利用調整を進めた結果、1名の受入れが決まり、11月中に利用開始した。現在はサービスの調整のため利用はないが、利用相談があった場合は対応していきたい。</li> </ul>
<p>④各ケアユニットや職種・職員間の「役割」を尊重し合うとともに、地域包括ケアシステムの原点となる「支え合い」「思いやり」の精神や、チーム内でのコミュニケーションの大切さについて職員間で共有していきます。</p>	<p>&lt;特養部門&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署それぞれの特徴もあるが、各職種との関りを密にし、それぞれの役割にて利用者の生活を支えている。チームで利用者を支えていくため、職員間のコミュニケーションを大切にし、業務負担が特定の職員に偏らないよう調整している。</li> <li>・ユニット（介護単位）間の協力体制の構築について、6丁目、7丁目の2ユニット間では昨年度に構築された協力体制が継続されている。残る2丁目、3丁目、5丁目ユニット間においては、育休者の復帰等により人員も回復しつつあり、協力体制ができつつあるものの、組織立った形にはなっていない現状である。6丁目、7丁目と同様に、体系的な協力体制の構築に向け、検討を進めている。具体的には職員欠員時の他ユニットへの協力体制は構築された。</li> <li>・今後の人事異動も含め、ユニット間での更なる協力体制の構築に努めていきたい。</li> </ul> <p>&lt;障害部門&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング会議では、スタッフ一人一人が議題を持って、積極的に意見交換を行えるようにしている。近年、障害特性や家庭環境による支援の困難さや、複雑さが増しており、より一層、チームとして対応する力が求められる。そのため、会議や打ち合わせを重視し、課題に向けては、チーム全体として取り組む姿勢としている。</li> </ul>
<p>⑤新潟県が実施主体となる「認知症介護研修（基礎研修、実践者研修、実践リーダー研修、指導者研修）」等の研修会に計画的に参加し、施設内での認知症ケア向上につなげていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大予防に伴う対応策として、今年度の各外部研修の実施は見合わせとなった。一方、施設内での認知症ケア向上に関する研修は8月から再開し、合計4回、延べ60人の職員が参加した。</li> <li>・上記以外の取り組みとしては、ユニット毎に対象利用者を抽出しアセスメントの実施やアンケートを行った。</li> <li>・次年度以降の外部研修については感染状況を見ながら参加を検討したい。</li> </ul>
<p>⑥ICT（情報通信技術）を活用した記録業務の負担軽減や効率化、一人ひとりが働きやすい職場環境に向けた取り組みを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢部門は5月から電子化に完全移行した。その後は入力作業に慣れて来たことで、記録に対する業務負担の軽減を実感する職員が増えてきた。まだ機械操作に不慣れな職員もいるが、職員同士情報共有しながら進めており、軽減した業務を利用者支援につなげたいとの意見も聞かれるようになってきている。</li> <li>・デイサービス部門では記録の電子化が軌道に乗り、導入したシステムを全職員が有効に活用しており、その結果、記録にかかる時間が減り利用者に関わる時間が増え、レクリエーション時には個別に対応ができるようになってきている。</li> <li>・記録の電子化連動対応血圧計6台を購入し業務の効率化を図った（16万円）。</li> </ul>
<p>⑦介護ロボット等の活用による介護業務の効率化や負担軽減に引き続き取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢部門では、リショネベッドを2台継続して使用している。職員の腰痛予防や負担軽減の一部となっている。また今年度は低床ベッド2台購入（入替、61.1万円）と移乗サポートロボット1台購入（92万円（新潟県介護ロボット補助金より））した。このことにより、職員の腰痛緩和や負担軽減にも繋がっている。尚且つ利用者の安全にも配慮す</li> </ul>

	<p>ることが出来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害部門では、リショールネベッド3台、自動体位交換マット2台を活用している。移乗時の人員削減や、体位交換介助の削減につながっている。</li> <li>・高齢部門にて経年劣化によるベッド1台を、低床ベッドに入れ替え介護業務の負担軽減を図った(30.5万円)。</li> </ul>
<p>⑧地域に暮らす高齢者やボランティア、夕映えの郷メンバー等に対し、社会における活躍の場を提供するとともに、地域住民や施設利用者の生活の質の向上に引き続き取り組みます。</p> <p>今年度の重点取り組みとして、介護予防教室だんだん広場・火曜クラスの開催場所を大湊保健センターから当複合施設内に変更します。全クラス(火曜・水曜・木曜)を一体的に運営することで法人全体としての業務の効率化を図るとともに、広場に参加する元気な高齢者等を施設部門でのボランティア活動等に積極的に働きかけていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部との交流・接触の自粛を継続した。</li> </ul> <p>&lt;ボランティア等、外部との交流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ受入れ人数：254人(前年度：703人)</li> <li>・高齢部門では、クラブ活動(畑作業)以外の外部ボランティアの受け入れを中止している。</li> <li>・障害部門では、コロナ禍のため、夕映えの郷との交流を中断していたが、7月より買い物代行サービスを再開した。夕映えの郷の利用者が買い物代行を担うことで、介護職員の業務軽減にもつながっている。</li> </ul> <p>&lt;介護予防教室だんだん広場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月から約5か月間にわたり、活動を中止していたが、7/28(火)より「新たな生活様式(3密防止)」に基づき、活動を再開した。</li> <li>・延べ参加人数：909人(前年度：3,653人)</li> </ul> <p>&lt;面会等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止対策として居住棟内での面会を禁止し(看取り時を除く)、その代替として「玄関ロビーでのビニールカーテン越し面会」や「中庭からのガラス越し面会」、「オンライン面会」等の対応でご利用者と家族の交流を支援した。</li> <li>・延面会人数：213人</li> </ul>
<p>⑨大学や専門学校等からの実習やインターンシップを積極的に受け入れることで、将来の人材採用につなげていきます。また、今年度については次世代育成の観点から相談援助職の新卒採用についても検討していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により、年度当初は各種学校等すべての実習受入れを中止としてきたが、9月下旬より再開した(上越看護専門学校及び長岡こども福祉カレッジからの実習を受け入れる)。</li> <li>・昨年度までの取組により、今年4月には2名の新卒採用(介護職)につながったことから、次年度以降の採用に向け、実習が再開となった際には努力していきたい。</li> <li>・地域包括支援センターにおいて、次世代育成の観点から保健師を募集し、1名の若手職員の採用に結びついた(6月1日付け正規採用)。</li> </ul>
<p>⑩更なる経費削減に努めるとともに、施設設備の修繕等や非常災害・防犯に関する対策を進め、利用者及び職員にとって安全・安心かつ快適な環境の確保に継続的に取り組んでいきます。</p>	<p>&lt;経費削減の取組状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費の月次使用量等を現場にフィードバックし、コスト意識を啓発(4-6月期：前年比60万円減)</li> <li>・水道節水装置導入により定期メンテナンスを行うと共に、実績データを検証し経費削減に努めた(6月期現在、6ヶ月の取組で316万円の節減効果)。</li> <li>・空調他ガス料金の節減：4~3月期年間：前年比310.4万円減</li> </ul> <p>&lt;設備修繕や環境改善の実施状況等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスセンター浴槽修繕(58万円)</li> <li>・厨房洗米機の故障による入替(80万円)</li> <li>・旧館機械室の給湯ヘッダーを入替(90.2万円)</li> <li>・新館ボイラー給湯用温ヒーター修理(30.8万円)</li> <li>・機械室の電子式水道メータを入替(51.7万円)</li> <li>・高圧気中開閉器の入替(96.5万円)</li> <li>・プレハブ冷凍冷蔵庫の入替(129.5万円)</li> <li>・高齢部門にて経年劣化等により車いす6台購入(23.2万円)</li> <li>・居室タンス、ベッドを計画的な入替から修理対応しコスト削減に努めた。ベッド23台修理費(約100万円、購入の場合約30万円/1台)</li> <li>・施設誘導灯のLED化(132万円)</li> <li>・障害部門特浴入替(866.8万円)</li> </ul>

	<p>&lt;コロナ支援金の活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス等感染予防の一環としてコロナ支援金（補助金）にて施設整備の実施。併せて計画的な備品の入替や整備について、コロナ支援金を活用することで効率効果的な経営に努めた。</li> <li>・送迎車輛1台入替（227万円） ・厨房消毒用に電解水生成装置購入（92.8万円） ・パソコン3台（51.2万円） ・サイドテーブル12台（48.1万円） ・正面玄関入口に赤外線体温計設置（21.4万円） ・施設ロビー、ダイルーム等に感染対策として飛沫防止パネルやビニールカーテンの設置</li> </ul>
--	---

<重点数値目標>

特別養護老人ホーム	入所	利用率 97.5%/年											
	短期入所	利用率 83%/年											
(長期入所)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
(%)	91.7	91.1	92.6	93.5	97.1	96.1	94.4	94.8	93.8	94.1	96.3	97.1	94.4
(短期入所)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
(%)	55.0	67.5	66.1	61.3	66.7	70.0	67.7	85.8	83.9	90.1	94.9	87.4	74.6
デイサービスセンター	1日型サービス	延べ利用者数：25人以上/日（650人以上/月）											
	半日型サービス	登録者数：25人/月											
(1日型サービス)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
(人)	22.8	22.3	23.2	23.2	23.5	23.8	24.4	24.1	24	19.4	23.3	23.8	23.1
(半日型サービス)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
(人)	27	25	26	27	30	28	27	27	26	26	26	26	26.7
*延べ利用人数の状況													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日型	595	579	608	627	612	624	659	603	648	388	560	644	595.5
半日型	122	111	137	167	136	133	146	127	146	83	123	157	132.3
合計	717	690	745	794	748	757	805	730	794	471	683	801	727.9
障害者支援施設	生活介護	利用率：92%/年											
	施設入所支援	利用率：92%/年											
	短期入所	利用率：87%/年											

## (生活介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
(%)	96.8	90.9	93.9	93.5	94.6	95.0	96.1	94.3	93.9	95.0	95.0	97.8	94.7

## (施設入所支援)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
(%)	95.0	90.6	91.5	91.5	93.4	95.0	95.8	93.2	92.9	94.2	95.0	95.8	93.6

## (短期入所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
(%)	36.7	45.2	80.0	61.3	48.4	31.7	41.9	35.0	90.3	91.9	98.2	79.0	61.5

## 居宅介護支援事業所

担当件数：130件以上/月

(居宅介護支援(受託した介護予防支援および介護予防ケアマネジメントの担当件数を含む)の担当件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	136	134	142	148	146	150	151	149	151	147	147	146	145.6

## 地域包括支援センター

実態把握：650件/年、

介護予防ケアマネジメント：100件以上/年(委託分除く)

(ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯名簿に基づく実態把握訪問の実施件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大湊	6	10	31	18	16	30	33	20	11	8	10	14	207
頸城	8	67	51	41	84	129	130	61	29	27	12	1	640
合計	14	77	82	59	100	159	163	81	40	35	22	15	847

(介護予防支援、介護予防ケアマネジメントの担当件数)

&lt;大湊区&gt; ※1月以降、件数が急増しているのは職員の異動によるもの

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
直接	57	54	72	73	73	76	77	64	62	83	89	108	74.0
委託	76	72	76	77	78	77	79	80	81	106	107	104	84.7
合計	133	126	148	150	151	153	156	144	143	189	196	212	158.4

&lt;頸城区&gt; ※1月以降、件数が急減しているのは職員の異動によるもの

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
直接	49	49	34	38	36	41	45	59	57	28	36	40	42.6
委託	78	79	79	88	89	90	95	91	82	48	47	47	76.0
合計	127	128	113	126	125	131	140	150	139	76	83	87	118.7

&lt;合計&gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
直接	106	103	106	111	109	117	122	123	119	111	125	140	116.0
委託	154	151	155	165	167	167	174	123	163	154	154	151	156.5
合計	260	254	261	276	276	284	296	246	282	265	279	291	272.5

## 1-2) 在宅支援課

<p>部門目標：当複合施設および法人または地域のそれぞれの事業所と連携して、地域の方々が必要としていること、困っている方々の相談などに誠意ときめ細かな配慮のもとで寄り添い、その人らしい自立した生活が送れるよう良質なサービスを提供し続けます。</p>	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①職員一人ひとりが自分の仕事に責任を持ち、お互いの役割を認め、自分の役割をしっかりと果たします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生型社会の実現に向けて相談支援体制の一元化が進められているが、障がい・高齢それぞれの専門性が連携・協働する形で発揮される必要がある。職員それぞれが自分の役割や専門性を再認識し、他分野の専門職と連携・協働していく視点に気づき、必要性を感じ取れるよう夕映えの郷との連携会議では多職種との連携に重きを置いて進めてきた。個別ケースについては、適時関係者を参集してより具体的な支援の方針や内容を各分野の専門的見地から検討することができた。</li> <li>・デイサービスでは、相談職、介護職、看護職それぞれが専門性を持ちながら、共通する業務については助け合う等、チームワークを大切にしてきた。</li> </ul>
<p>②ご利用者との関わりを大切にし、想いや望みをくみ取り、その実現に向けてご家族や地域の方々の力を借りて実現していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に対する個別性の高い支援を展開していく前提にはアセスメントにおいて利用者や家族の想いや望みを把握することが重要であり、職員一人ひとり日々丁寧に取り組んだ。</li> <li>・利用者の状態やニーズを新たに把握した場合には、行政や民生委員等、各関係者と連絡を取り合い、情報の共有に努めた。</li> </ul>
<p>③地域との連携の中でお互いの困りごと、協力し合えることを一緒に考え、実践していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕映えの郷との連携会議では、地域でのさまざまな相談の中から多職種での支援が求められる事例を抽出して情報共有を図った。地域で支援するそれぞれの専門職が支援のあり方や方向性を一緒に検討していく過程を大切にしている。</li> <li>・連携会議を通じて、顔の見える関係性が構築され、現場の職員同士で気軽に相談や助言を求めることができるようになり支援の質を高めることができた。</li> </ul>

### 1-2-1) 地域包括支援センター

<p>部門目標：地域包括支援センターの基本的な視点（公益性、地域性、協働性）をもって「地域包括ケアシステムの深化・維持」から「共生社会の実現」に向けて地域や各分野の関係機関とも連携を強化していきます。</p>	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①今年度から担当する障害者、引きこもり、生活困窮者などの相談支援体制を構築し、支援方法はケースを通じて職員間で情報共有を図ることで職員一人ひとりの支援力向上に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者の自立相談では業務追加の周知が広まったことで相談件数が徐々に増えてきた。支援内容として生活保護の申請、自立相談支援計画策定、関係機関への紹介、セーフティネット事業の申請等を迅速に行った。新型コロナウイルス感染症に関連する相談は少なく、高齢や精神的な疾患で離職し、その後就労できずに生活費がなくなることが原因となっている。</li> <li>・障がい者の相談は上越基幹相談支援センターからの引き継ぎケースの他に、新規の相談が増えている。相談窓口のチラシを4月末に大潟区では全戸配布、頸城区には班回覧で周知したことが効果的であったと考えている。障がい者の相談に対して関係機関につなぐ役割を担っているが、サービスにつながるケースが少なく、継続して担当し関係機関に情報提供や支援の調整等を行っているため業務量が大きく増えた。</li> <li>・ハローワークや上越地域若者サポートステーションからの事業説明を受けたり、夕映えの郷を含め障がい福祉サービス事業所に見学に行く等、社会資源の把握に努めた。</li> <li>・5月より職員間の情報共有や支援状況を振り返り、検討することを目的に月1回業務連絡会議を開催した。様々な難しい事例に触れ、支援を共に振り返り、検討することで職員の実践力の向上や均等化を図った。12月以降は職員の異動に伴い6名体制となっ</li> </ul>

	たことで一人一人の業務負担が増え、会議が行えない月も生じた。
②介護支援専門員の支援で「かかりつけ医との情報共有」や「多職種連携」をテーマとした介護支援専門員研修会や関係機関との意見交換を年1回以上開催します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月に1回、大潟区・頸城区の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所の職員を対象に「介護支援専門員連絡会」を計画しているが、5月は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。</li> <li>・7/16には12名の参加を得て実施する。昨年度は地域で消費者被害があったことから上越市消費生活センター職員より消費者被害防止のポイントやクーリング・オフ制度について講義を受け、知識の習得と関係機関との連携について学んだ。その後は新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、計画を変更し9月と2月に実施した。</li> </ul>
③地域ケア個別会議は事例提供者をはじめとした参加者に対して、アセスメントのポイントや支援の助言など、「お土産」を持ち帰ってもらえる会議を開催します。また検討した事例はその後確実に必要な支援につながるように事例提供者への伴走支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は行政と地域包括支援センター職員のみで実施することになった。</li> <li>・6/19に地域包括支援センター職員研修会で地域ケア個別会議の目的や今年度の取り組み方法について説明があり、8月下旬にアドバイザーが入るモデル地域包括支援センターの地域ケア個別会議を見学した。今年度は大潟区で11月、頸城区で2月に開催した。</li> </ul>
④地域ケア推進会議は上越市版地域包括ケアシステムの構築に向けて、年3回以上実施する地域ケア推進会議のうち、地域の実情に合わせて見守りに関する内容、障害福祉に関する内容等を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉に関するテーマでは、障がい福祉分野と必要な社会資源や連携の在り方について、8/26に柿崎、浦川原、当包括の3地域包括支援センターの合同で開催した。</li> <li>・「地域での見守り」に関するテーマでは、大潟区で1回（12月）、頸城区で3回（11月）開催し、実例をもとに具体的な検討を行った。</li> </ul>

## 1-2-2) 居宅介護支援事業所

部門目標：法人内や他事業所との連携を図り、制度や地域資源のつなぎ役を果たすことでその人らしい自立した生活が送れるよう質の高い支援に努めます。また、個別支援を通じて抽出された地域課題に対しても関係機関と協働して取り組んでいきます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①特定事業所加算Ⅱの算定事業所として職員の資質や専門性の向上に努めると共に、事業所内での報告・連絡・相談の仕組みを機能させ、職員一人ひとりの支援力の標準化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により研修等の開催が中止となったことで、個々の支援力の向上に向けた取り組みが難しい状況になっている。</li> <li>・毎週定例の会議では担当ケースの報告が主になっているが、報告に留まらず、ケース検討を盛り込み、それぞれの資質向上につなげていきたいと考えている。</li> <li>・4月に新職員が加入し、わからないことの相談に応じたりや支援のフォローをしながら業務は軌道に乗ってきている。他の職員にとっては初心に立ち返るよい機会となり、自身の支援の振り返りとなっている。</li> <li>・8月に他法人との研修を実施。精神疾患のある方について事例をもとに研修を行った。今後の課題として、他事業所との情報共有をもっと行い、今後の資質向上につなげていきたい。</li> <li>・各自ケースの報告はいしているが、ケースの検討までには至らないことが多かったため、実際にケース検討を実施する。ケース検討では、事例提供者の新たな気づきや参加者自身にも参考となる意見も出た。今後も定期的で開催し、今後の仕事に活かし、学びを深め、一人一人の向上につなげていきたい。</li> </ul>
②ご利用者との関わりを大切にし、気持ちのよい接遇を心がけ、利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に利用満足度調査を実施し、利用者、家族（介護者）の意見を聴取した。比較的好い意見をいただいている一方で、少数の「～がわかりにくい」等の意見に対し</li> </ul>

<p>一人ひとりの生活に対する意向の確認、家族の意向・想いを大切に支援していきます。</p>	<p>て、事業所内で改善を話し合い、回答を盛り込んだ事業所のリーフレットを作成し、配布している。リーフレットはわかりやすいとの声が聞かれ、引き続き活用していくことにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響で、訪問自粛となり、訪問ができなかった期間は、電話で状態把握やモニタリングを実施したが、遠隔的なやり取りでは相談のしにくさを感じる方がいた。感染防止策を講じた上で訪問し、面接したことで、安心につながることで、訪問をして話を聞く大切さを感じている。</li> <li>・日々の業務で利用者、家族の話を傾聴し、自己決定につなげられるような支援を心掛けて対応している。今後コロナ禍においては面接時間にも配慮が必要になってくるかと考えている。本人の意向や思いを汲み取る努力を続け、信頼関係を構築している。</li> <li>・今年は大雪となり、急なサービス調整が必要となったが、本人、家族の意向をもとにサービスの組み立てをすることが出来た。</li> <li>・通年さまざまな感染症対策を講じていかなければならない状況となり、制約のある中でも対面を重ねての信頼関係の構築に努めた。引き続き、感染症の状況に応じて、適切な感染防止策を講じながら柔軟に対応していきたい。</li> </ul>
<p>③事業所内でのコミュニケーションを大切に、風通しがよく、お互いが助け合ったり高め合える職場作りに努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの抱えているケースについて、支援に行き詰ったり、迷ったりするような場合には関係機関と連絡を取り、個別に相談・検討している。しかし事業所内においては定例会議の場があってもケースについて話を出すようにはしているが、共有することが少ない。情報共有の方法を工夫することで、全体共有を進め、個人ではなく事業所として利用者への支援をしている意識を高めることが職員一人ひとりの精神的負担の軽減を図ることになると考えている。これまでの経験や知識、能力を職員全員で共有することで、お互いの力量を高め合う効果が期待でき、よりよい支援につなげていくことで事業所としての質の担保を図っていきたいと考え、次年度も忘れずに意識をし、日々の業務に努めていきたい。</li> </ul>

### 1-2-3) デイサービスセンター

<p>部門目標：関係機関や職員間の連携を密にし、年齢や障害を問わず利用者のニーズに合わせ柔軟に対応できる支援を目指します。</p>	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①ご利用者のニーズを把握し希望に沿った行事や活動等を行い、サービス利用開始のきっかけ作りや、利用の継続に繋がるよう支援します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族のニーズに合わせ、半日利用を1日型に移行したり、1日利用を半日型に変更したりと、サービスの提供時間や内容の変更・調整を行っている。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症予防のため、企画していた外出行事を中止している。利用者からは残念との声が多く挙がり今年度中止の分、来年の外出行事に向けニーズを把握している。また通常の体操やレクリエーションに加え、選択レクリエーション（裁縫や作品作り等）を行い、利用者を選んで楽しんで頂けるよう努力している。</li> <li>・だんだん広場や地域のサロンが一時中止となり、代わりに半日型を利用する方が増加した。地域の様々な事業が再開しても、デイサービスを継続してもらえよう、利用者のニーズを汲み取り、活動に楽しみを持って参加できるよう努力している。</li> </ul>
<p>②障害のある方への支援について研修会への参加や施設見学等も行い、障害のある方への支援の知識と技術を深めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月から夕映えの郷との連携会議に参加している。6/25に基準該当生活介護サービスを提供している2施設に相談員が見学に行き、デイサービス会議にて報告し職員全員で共有し、今年度の方向性を確認し合っている。</li> <li>・10月に夕映えの郷より、11月から基準該当生活介護サービス利用の依頼がある。11月中に見学をしてもらい、担当者会議を経て、11/18から利用開始した。現在はサ</li> </ul>

	<p>サービスの調整のため利用はないが、利用相談があった場合は対応していきたい。障害報酬の請求業務については初めてのことで分からないことが多く、他事業所や上越市に連絡を取り、指導・助言を得ながら進めていきたい。</p> <p>・2/25の夕映えとの研修会に参加した。障害について学ぶ良い機会になった。</p>
<p>③空き情報の定期更新や営業活動等を積極的に行い、新規依頼時には迅速に対応し、通所介護及び総合事業の毎月の利用延べ人数650人（毎日の利用者数25名以上）、半日型デイサービス（主に総合事業の通所型サービスAの対象者）の登録数25人を目指します。</p>	<p>・お試し利用の依頼には迅速に対応することができている。また月初め、実績やモニタリングを配る際には、空き情報を更新し各事業所に書面で周知に努めている。新型コロナウイルス感染症予防のため、各事業所では玄関先での対応やFAX、郵送対応にて利用者のデイサービスでの状況を報告し情報連携に努めている。</p> <p>・10月に近隣事業所へ統括施設長、高齢介護課長、ショートステイ担当の生活相談員と共に営業に回り、空き情報を提供している。その成果で新規利用者の紹介が増え、利用率上昇の一因になった。</p> <p>・半日型の登録数は一時期目標を達成するも、1日型への移行があり登録者数は変動があった。</p> <p>・1月は大雪で交通機関が麻痺し、デイサービスも送迎が行えず、休業や時間短縮で対応する日が数日あった。</p>
<p>④職員間のコミュニケーションを大切にし、お互いに思いやりを持って、相談しやすく働きやすい職場環境作りに努め、笑顔を決やさず、良質なサービス提供を目指します。</p>	<p>・6月から介護職員1名減となっているが、業務の見直しや整理、改善すべき部分は改善していく必要があり、5月末に職員に向けてアンケートを実施し6月に集計し職員に提示した。改善した方が良いところは少しずつだが改善できるよう、職員同士話し合いながら対応している。</p> <p>・看護職員の業務見直しや意見交換を含め、7月に初めてナース会議を開催している。ある職種だけで悩まず、お互いに共有し助け合えるよう会議にて話し合っている。</p> <p>・8～10月に介護職員の体調不良が続き、勤務変更等を行いながら、お互い助け合い協力して業務を行っている。職員減の状況のままでは一人ひとりの負担が大きく、利用率向上に取り組むことは難しいと考え、上司と相談して11/1付けで介護職員の増員が決まったが、1月から職員1名療養、1名業務軽減対応等あり、厳しい状況が続いた。介護業務については職員で話し合いを行い、介護職員だけでなく相談員、看護職員も協力し合う事ができた。</p>

### 1-3) 高齢介護課（特別養護老人ホームしおさいの里）

部門目標：利用者、職員共に笑顔で、安心して楽しみややりがいのある生活が送れるよう、心や思いに寄り添い、適切なサービス提供の実現を目指します。また地域の中の一員としての役割にも目を向け利用者・職員が一体となり充実したサービスの展開、質の高いサービスの展開を目指します。

重点目標	実施状況・期末評価
<p>①利用者の基本的な人権を尊重し、安心・安全な生活が継続でき、その人らしく笑顔で生活できることを大切にしながら支援します。</p>	<p>利用者に対する言葉使いや対応態度等、不快な思いが無いよう十分に注意して行ってきた。</p> <p>生活全般においては、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事等が中止となり、なかなか楽しみが持てなかったが、安全な環境の中でサービス展開が行えるよう整え、利用者の笑顔を絶やすことなく楽しみのある生活が継続できるよう支援してきた。生活に楽しみや張り合いが持てるよう各部署において活動の創意工夫がなされた。</p>
<p>②認知症ケア担当者が中心となり、認知症の理解を深め、一人ひとりが自分らしく安心した生活が送れるよ</p>	<p>認知症に関する外部研修は中止や延期となり参加できなかった。また施設内の研修も中止している。利用者に対する支援については各部署において会議内で検討し、一人ひとりの状態に合わせて対応してきた。各部署内で課題を抽出し、取り組みを計画</p>

うな支援を目指します。認知症研修等の参加にも努めます。	的に実施。定期的に評価し、会議で持ち寄り発表や意見を出し合いケアに繋げている。
③専門職としての自覚を持ち、個々の役割と責任を認識しながら、職員間のコミュニケーションを大切に、風通しの良い、働きやすい職場環境を目指し、質の高いサービスを目指します。	職員一人ひとりが専門職としての自覚と自身の役割を認識しながら、質の高いサービス展開が出来るよう努めてきている。また職員間でも連携し、チームで日々のより良い生活支援が実施できるよう報連相を大切にしている。継続的に取り組みは行っているが各部署によって雰囲気の違いもある。各主任が中心となり話し合いの場を設け意見を聞く等働きかけは継続している。 部署によっては、お互いの部署を行き来することで、業務連携を図り、職員同士のコミュニケーションを取ってきた。まだまだ不十分ではあるが、継続して業務連携を取っていく。
④地域に暮らす高齢者や障害者、地域住民の活動の場としてボランティア活動やその他の社会活動の受け入れを継続し、利用者の活動の輪の更なる広がり、可能性の引出しや楽しみ、やりがいを持つことで、社会との結びつきの更なる充実を目指します。	外部ボランティアの方々の受け入れは中止している。直接利用者と触れ合うことのない畑々クラブのボランティア活動は継続して実施出来ている。今後の状況を踏まえて活動の再開を目指していく。また施設内部参加者のみで規模を縮小しチクチク倶楽部は再開している。2部署毎での実施となっており、月2回の参加が月1回となっているが、少ない人数でも職員と一緒に楽しいひと時を過ごされている。 現状外部ボランティアの協力は難しいが、工夫しながら利用者の活動の場を提供していきたい。
⑤一人ひとりが自身の資質向上のため、積極的な研修参加や自己研鑽に努めます。	新型コロナウイルス感染拡大予防のため施設内外の研修は中止している。今後の状況を踏まえて研修の開催方法等も検討していく。新しい生活様式に合わせて施設内研修を行ってきた。
⑥記録の電子化導入により、業務軽減や仕事の効率化等、職員一人ひとりの負担軽減を目指します。また移乗支援用具等の導入も進め、持ち上げない介助を推進し、腰痛予防にも努めます。	5月1日からの完全電子化導入に向け、各部署検討委員をはじめ、皆で取り組んだ。導入後は業務軽減や効率化にも繋がっているが、不慣れな部分もあり、継続的に毎月委員会開催し、評価等実施している。移乗支援用具も必要な利用者には積極的に取り入れ、安心・安全な介護を目指している。電子化導入から5か月経過し機器の不具合が時々生じるが、作業動作はほぼ慣れてきているため、電子化検討委員会は10月の委員会をもって解散とした。入力作業に慣れて来たことで、記録に対する業務負担の軽減を実感する職員が増えてきた。まだ機械操作に不慣れな職員もいるが、職員同士情報共有しながら進めており、軽減した業務を利用者支援につなげたいとの意見も聞かれるようになってきている。今後の前向きな課題とする。 令和2年度新潟県介護ロボット導入支援補助金を受けて、移乗サポートロボット「ハグ」を導入。利用者の安全を守り職員の介護負担軽減につながっている。 随時、跳ね上げ式車椅子やスライディングボードを購入配備して、職員と利用者それぞれの負担軽減のための介助を行ってきている。

### 1-3-1) しおさいの里・2丁目

部門目標：利用者が心身ともに健康で充実した生活を送ることができるよう、職員一人ひとりが考え、協力し、真摯な姿勢で支援していきます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①日々の生活支援の中で、感染症の予防・安全への配慮を行いながら、年間・月行事の企画・開催や季節感のある飾り付けを行い、利用者を楽しんでもらえるように努めます。	10月・11月・1月に、体調不良・精神面の不安定による利用者の入院があったが、他利用者への体調不良等の拡大はなかった。職員体勢は、退職・家事都合等により欠員が発生したが、ケア向上委員会のケアアップ活動（手洗い・うがいの励行）や新型コロナウイルスの感染防止に対する意識から、長期に渡る療養取得はなく、利用者への援助を維持することができた。

<p>利用者個々のニーズには、できる限り応えていきます。</p>	<p>安全面では、ベッドや車椅子からの転落事故・薬に関する事故・内出血等の怪我による事故が上がっていた。対策の徹底が成されていなかったり危険予測が不足していたりしたことが原因として見えていたように思う。自身のケアの振り返りも必要。2丁目内の飾り付けは、各月毎に変えていた。また、新型コロナウイルスの影響が懸念される中ではあったが、感染防止に努めながら、「しおさいの里感謝祭」と銘打ったもの、クリスマス・忘年会、新年会といった行事も行うことができた。来年度は、体調面・重大事故に注意を払い、ワクチン接種等で活動の幅が緩和された際は、施設内・外の活動を復活させていければと思う。</p>
<p>②利用者への言葉の表現やトーン・対応の仕方等、不適切ケアに繋がらないよう、職員全員で気を付けます。</p> <p>また、定期的に職員自身の介護・援助の仕方を振り返る機会を設け、ケアの質が維持・向上していけるよう努めます。</p> <p>介護の基本となる整容（髪・髭・眼脂・衣類）や姿勢（食事の姿勢・栄養低下時の臥床姿勢）には、特に気を配ります。</p>	<p>人権意識向上委員より、定期的に目標を掲げてもらい、毎日評価を行っていることは、現在も継続できている。</p> <p>それでも、言葉のチョイス・言い方・トーンといったコミュニケーション部分、髭・眼脂・口の周り等の整容部分の課題は解消されていないように感じる。</p> <p>今後も評価は続けていかなければならないと思うし、このような部分から不適切なケアに発展しないよう、今後も努力していく必要がある。</p>

### 1-3-2) しおさいの里・3丁目

<p>部門目標：利用者が安心し、健康な生活を送れるよう援助し、職員にとっても働きやすく、職員一人ひとりが個性を発揮できる環境作りに努めます。</p>	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①利用者が健康で充実した生活を送れるよう、感染症の予防、また事故防止に努め、安心、安全快適なサービスを提供します。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大予防にて面会、外出制限にて利用者方々には我慢の生活が続き充実した生活が送れているとは言えない状況で出来るだけ職員が工夫しながら利用者方々に安心して生活が出来るように配慮行ってきた。</p> <p>職員も同様に感染症に十分に注意し安心して生活して頂けるよう努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症については職員一人ひとりの心掛けで予防できている。感染症以外にも、大きな事故なく、事故防止の観点からも、目標達成に近づけた。</li> </ul>
<p>②職員一人ひとりが考え意見を言い合えるコミュニケーションを大切にしたい環境、また相談しやすく働きやすい環境作りを目指し、職員の連携が密になるよう努めます。</p>	<p>職員の異動、また欠員もあり業務環境が変化したため、コミュニケーション不足の部分がみられたが、職員一人ひとりが聞きやすい（話しかけやすい）環境作りを心掛けた。</p> <p>現状はまだ上手くいかない所もあるが、今後も話しやすい環境作りに努めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員個々の役割を理解し話し合える環境が出来てきている、連携も取れ、素早い話し合い対応も出来てきている。利用者対応もそのひとつだが、職員との話し合いも行い、業務の見直しを行い、時間外の削減につながった。</li> </ul>

### 1-3-3) しおさいの里・6丁目、7丁目

<p>部門目標：利用者一人ひとりが安心して楽しみのある生活を送れるよう支援し、職員にとっても働きやすい職場環境作りに努めます。</p>	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①日々の支援の中で、利用者一人ひ</p>	<p>・日々のコミュニケーションやスキンシップの中で、利用者一人ひとりの楽しみや</p>

<p>どりの楽しみややりがいを探りながらサービス提供し、楽しんでいただけるようまた、安心して過ごしていただけるよう努めます。</p>	<p>やりがいを探り、情報共有を図っている。しかし、日頃の余暇活動の働きかけは業務の中で時間を見つけているが、業務中心となったり、職員体制が安定せず働きかけが少ない。散歩等の余暇活動を通して良い表情を得られている。職員全員で協力し、時間を見つけ個々の利用者に働きかけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当が中心となり傾聴したりスキンシップを働きかけている。</li> <li>・外出や行事等が、新型コロナウイルス感染拡大予防にて自粛しており、今後、できる範囲で楽しみとなる活動を計画して働きかけていく。</li> <li>・畑の作物の成長を眺めたり、収穫を体験したりし季節を感じていただけた。</li> <li>・ソーシャルディスタンスを保ちながら少人数でのチクチク倶楽部を再開し楽しみの一つとなってきている。</li> <li>・欠員等あるも、時間を見つれたりし利用者とは話したり、スキンシップ図り働きかけが出来ている。</li> </ul>
<p>②新体制に伴い、職員間のコミュニケーションを大切に、業務体制を更に工夫しながら働きやすい風通しの良い職場環境作りに努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員や異動職員のいる中で、メインとなる丁目での研修を中心に研修を行い、部署間の行き来が出来ない時もあった。</li> <li>・お互いの部署の行き来をすることで、受診や欠員時等では当日出勤者で話し合い、業務の連携が取れてきている。</li> <li>・新体制について、部署間で協力し進めてきていたが、説明不足で思うように行き来しやすい環境作りまではいかなかった。次年度の課題とする。</li> <li>・今後も、主任・副任が中心となり、お互いの部署を知り連携を図れるように行き来しやすい体制を工夫し継続していく。また、相談しやすく働きやすい環境づくりに努めていく。相手に伝わりやすい言葉かけを意識し、職員間のコミュニケーションを大切にしていく。</li> </ul>

### 1-3-4) しおさいの里・5丁目

部門目標：何度もご利用していただけるように心のこもったサービス提供に努めます。	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①利用者やご家族の意向や苦情に真摯に向き合い、気持ちに寄り添った対応を行い、安心して利用できるよう努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に職員の不適切な対応による苦情が1件あった。本人への指導を行い、モニタリング会議内で二度と繰り返さない為話し合いの場を設けた。今回の苦情に真摯に向き合い、受け取る側（利用者）が安心できるような職員の言葉、表情、声のトーン等を含めた声掛けを行っていく。</li> <li>・利用者の方やご家族の希望や意志を受け止め、可能な限り寄り添って対応できた。</li> <li>・11月以降利用者の方やご家族からの苦情はなかったが、2名の利用者ご家族より別の内容で危険予知をして欲しいと声が挙がった。職員間で周知し対策行った。</li> <li>・利用者の方やご家族の気持ちに寄り添い、応えられるよう努めた。</li> </ul>
<p>②職員全員が目標に向かって自主的に行動を起こし、互いに協力し合い、活発なコミュニケーションをとれる状態を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①の内容から職員全員が目標に向かって自主的に行動を起こしたとは言い難いが、4月・5月・6月と職員の異動・復帰があり研修を行ってきた中で協力しながら業務を行えた。</li> <li>・分からない事や改善点等他職員と話し合いコミュニケーションを心がけた。判断に迷う場面や焦る場面は他職員からフォローを得た。ただし自主的な行動には至らなかった。</li> <li>・職員の認識不足やコミュニケーション不足によりヒヤリハット等挙がることがあった。職員全員の意識統一には至っていない。</li> </ul>
<p>③感染症対策に留意した上で可能な限り、7丁目多目的室や特養の空き</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大予防の対策として、個室1床を空床としている。また、他丁目の空床利用は行えなかった。</li> </ul>

<p>ベッドを活用し、利用率アップにつなげ、毎月の利用延べ人数 303 人を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用前体温 37.5℃以上の発熱、4月に施設内発熱者多数いたことによるキャンセルや転倒、体調不良による入院が多数あり、毎月の延べ人数は達成できなかった。</li> <li>・4月～6月平均 229名。</li> <li>・9月より個室1床利用再開した。</li> <li>・他丁目の空床利用は行えなかった。</li> <li>・7月ロング利用の方1名入所へ移行。8月ロング予定の方1名入所へ移行した。</li> <li>・10月7日近隣事業所、包括へ営業行った。新規利用者増えたが1泊利用が多かった。しかし、翌月以降の定期利用へつながっている。</li> <li>・7月～10月平均 245名。</li> <li>・11月～3月平均 319名。</li> <li>・4月～3月平均 264名。</li> <li>・11月以降利用率向上し毎月利用延べ人数は目標以上であったが、年間平均で上回ることができなかった。</li> </ul>
--	--

### 1-3-5) 看護

(1) 部門目標：利用者、御家族様が安心して過ごせるよう健康面から支えていきます。

重点目標	実施状況・期末評価
<p>①入所されてから看取りケアまで、他職種と協力し合い、安心・安楽なケアを提供するように努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は体調崩される利用者様多数あり。4月よりしおさいの里では、転院5名亡くなった方11名。さいはま園では入院中に亡くなった方2名。8月～11月亡くなった方2名（1名看取り）。12月～3月、入院1名。亡くなられた方3名（3名看取り）。4、5月に体調不良者多かったが、その後は比較的落ち着いた本人、家族の意向を他職種と確認しながらケアの提供に努めた。</li> <li>・看取りのエンゼルケアセットの2タイプを試して準備した。使用して必要物品の揃っている方に決定した。費用内でセットされており1つずつ揃える手間がなくなった。</li> <li>・利用者様の病状も様々でどの方向が、1番安楽、安心なケアの道なのか、悩むケースが多かった。その都度、関係職種と意見交換行い進めた。</li> <li>・年々、利用者様の抱える病気や家族背景が複雑化しており、普段の日々の生活から終末期に向けて他職員とより協力してケア提供に努めていくこと必要。</li> </ul>
<p>②医療職種の立場から、嘱託医・病院・薬局の薬剤師と連携し、体調管理面から支えていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託医師には、入所後の間もない急死の方の対応や、看取り数も多く、夜間、休日の対応依頼が重なった。その為嘱託医の業務量が増加し仕事の負担が多くなった。しかし、その中でも、各嘱託医より、往診診察対応で夜間、休日家族への説明、病院への紹介等対応してもらった。</li> <li>・8月～11月、猛暑もあり、食事摂取量低下した高齢の利用者様あり。改善する見込みもあり、病院へ点滴治療にて入院し状態改善されて帰園された方2名いた。</li> <li>・3月からは、新型コロナウイルス感染拡大予防対応で、病院の受け入れ体制も変化した。各病院と連絡とり、お互いの感染リスク軽減に努めた。</li> <li>・8月～11月は新型コロナ感染状況の落ち着いており、通常を受診対応に戻ってきた。感染委員会と連携してフェイスシート等備えを確認して準備した。</li> <li>・12月～施設内の新型コロナウイルス感染予防、体調不良者の情報共有、発生時の対応について、連携会議、高齢会議、又は施設長より、情報発信してもらい全職員への周知、意識付けに働きかけた。通常業務と並行してなので速やかに行えず、まだ発生時のゾーニングの準備など終了していない。次年度も引き続き取り組んでいきたい。</li> </ul>

	・また、病院カンファレンスにも参加して、利用者様の情報共有でケアが継続的に繋がるように務めた。
--	---

### 1-3-6) 機能訓練

(1) 部門目標：利用者様の思いを汲み取り、他職種との連携を図って援助を行って行きます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①専門職としての視点から、利用者の能力や可能性を念頭に置き、安全な生活環境や充実した生活を送れるような支援に努めます。	利用者に適したクッションや車椅子を選定したり、介護職員と協力してベッドや車いすでの適した姿勢保持を働き掛けた。より活気が見られるような体操やレクを働き掛けた。
②ボランティアの方と連携を図り、クラブ活動等を通して、利用者の楽しみややりがいを提供していきます。	ボランティアの方と連携やクラブ活動等については、引き続き感染症対策の為計画通りには実施出来ず、職員からの働きかけでクラブ活動等は行えた。
③職員と利用者それぞれの負担軽減のため、持ち上げない介助の推進を図り、移乗支援用具及び移乗方法の啓蒙・普及を奨めます。	随時、跳ね上げ式車椅子やスライディングボードを購入配備して、職員と利用者それぞれの負担軽減のための介助を行えた。機器を使用した統一した介助には至っていない事がある。11月から移乗サポートロボットハグを導入しトイレでの立ち上がりや立位保持、移乗に関しては利用者は限られているが機器の使用をすすめ、職員と利用者の負担軽減を図る事ができた。

### 1-3-7) 相談支援

部門目標：地域の方々や利用者、ご家族、施設職員が繋がりを大切にし、利用者一人ひとりが最期の時まで自分らしく、楽しみのある生活を送れるような支援を目指します。			
<行事年間計画>			
4月	花見	10月	水族館外出
5月	水族館外出	11月	買い物外出
6月	かつば祭り、笑日(えんにち)	12月	お買い物会
7月	七夕祭り、お買い物会	1月	お菓子作り カラオケ大会等
8月	蓮見学	2月	
9月	敬者会	3月	
<クラブ活動・他活動>			
ちくちく倶楽部	男気クラブ	畑々クラブ	ガーデニング
アロマ・カフェ	しおさいカフェ	うみまち茶屋	音楽レク
重点目標	実施状況・期末評価		
①利用者のアセスメントを充実させ、ご家族や施設職員と情報を共有します。	入所前の情報を家族に依頼しているが、最近では家族関係が希薄な利用者が増え、情報を得ることが難しくなっている。家族との情報共有としては、コロナ禍で面会ができない中でも、あっとホーム等で情報発信に努め、写真付き等工夫する職員もいた。 アセスメント表については、電子化に伴いソフト会社の指定の様式に変更したことで慣れないところもあったが、書き方等運用の工夫により、状況把握に活用できている。		
②地域に暮らす方々のボランティア活動を受け入れ、利用者が楽しみや	新型コロナウイルス感染症予防対策により、畑々クラブ以外はボランティアの来園は控えていただいた。他活動は利用者職員のみで規模を縮小して実施した。園芸		

やりがいを持てるクラブ活動や外出を通じ、地域との繋がりを目指します。	や畑々クラブは冬期の為実施できなかった。チクチク倶楽部はボランティアの参加なしで相談職のみで月2回で開催している。介護職員も関わっている。
③電子化の導入により仕事の効率化や職種間の連携を図り、多職種と共同体制のもと利用者の生活の質の向上を目指します。	電子化により業務効率が上がったが、職種間の言葉での報連相が記録頼りになった。記録の内容について利用者の様子がわかるように記入のお願いをした。今後も継続していく。オンライン面会導入により利用者と家族とのつながりを支援することができた。また家族からの要望多く、面会支援の大切さを再確認した。電子化により情報を活用することにより良いケアに繋がっている。

#### 1-4) 障害支援課 (さいはま園)

部門目標：多種多様な障害や重度化に応じたニーズに対応できる施設を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①利用者の「自分でできる」という思いを大切にした自立支援と、「なりたい自分」を目指す自己実現を支援し、QOLの向上を目指します。	個別支援計画作成時には、必ず利用者との面談を行い、自身の思いや、現在の状況、今後どうしたいか、どうなりたいかなどをプランに反映できるよう努めている。今年は、コロナの影響から外出や行動的なことができず、個々の意欲は低下しつつある。社会全体の動きも踏まえながら、次年度は精神的なフォローを中心に行う必要がある。また、ご家族様の同席依頼もできなかったが、ご家族様からのご意見を頂けるよう意見書を配布しており、面会できない家族とも利用者支援への連携を図っていく。
②「人権尊重と尊厳の確保」を実践し、人権意識向上委員会の3原則を遵守した一人ひとりを大切にする施設を目指します。	毎月目標を定め、部内で人権を意識し、実践に努めている。また、毎月のモニタリング会議での意見交換で、より一層、チームワークの向上につなげ、共通の認識を持って、利用者お一人お一人を大切にする事になげている。また、モニタリング会議では課長より課題提起を行い、随時、人権を意識できるよう今後も部署内で意識していく。
③福祉施設として担っている役割を発信し、さいはま園の取り組みや長所、福祉の魅力がコミュニティに浸透するよう努めます。	コロナウイルス防止対策により、外部に発信できるような取り組みができなかった。また、施設見学や担当者会議、外部交流などの中止により活動もなかったが、年度途中では、新しい生活様式を取り入れながら、行事や近隣ドライブなど実施することができた。次年度には、コロナ禍を想定しながらもできる範囲の新しいことに取り組みきたい。
④障害者の高齢化、重度化、障害や疾病の重複化などの課題を見直し、高齢・障害サービスを持つ法人として連携体制の構築に取り組みます。	医療度が高い方も増え、施設内で行える医療とは何かを考えてきたが、現在、福祉施設全体に求められている主な医療行為（在宅酸素、気管切開、人工呼吸器、胃瘻、喀痰吸引等）は、一般的にはほとんどの施設が対応できない現状がある。当園では、現在、尿フォーレ、経管栄養等を受け入れており、喀痰吸引や導尿を必要とされている方も今後受け入れることとなる。求められている医療行為は多くなる一方で、重度化、高齢化も課題となっていくため、今後も各サービスや制度について関係機関とも連携していく。
⑥職員同士が相談しやすい環境で「協議（目的を合わせる）・協力（力を合わせる）・協調（心を合わせる）」のチーム力で働きやすい職場を目指します。	モニタリング会議では、スタッフ一人一人が議題を持って、積極的に意見交換を行えるようにしている。近年、支援の困難さや、複雑さが増しており、より一層、チームとして対応する力が求められる。特に障害特性から、要望やこだわりが強く、スタッフに対し、恫喝や暴言のある利用者には、関係性がスムーズになるよう話し合いを行い、利用者の生活の安定はもちろん、職場環境や職員の精神的フォローを整えられるように努めてきた。また、制度や人員配置、運営については、課長よりモニタリング会議にて説明をし、スタッフも施設の状況を理解しながら、業務を構築するよう努めている。今後も、当園の目指すところを示しながら、目的を明確にし、心を合わせて、支援できるように努めていく。

### 1-4-1) 障害者支援施設（生活介護・施設入所支援）

部門目標：「ひとりのニーズに機能する施設」を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①その人を支えているもの（人）・大切にしているもの（人）を理解し、個別支援計画に基づいた「一人ひとりを重視した支援」を行います。	個別支援計画では、3カ月ごとに中間評価を行い現在の支援を確認し、半年ごとに再度、本人を交えてプランの見直しを行いながら、希望に沿える生活支援を目指している。具体的な方法で、どのように実践し、どこまで達成できたかなど、利用者とスタッフが一緒に確認することも継続して実施した。さらにご家族様の思いも、意見書としてプランに反映させてきた面は、今後も継続する。
②利用者の要望や相談事に真摯に取り組む、「安心できる暮らしの場」として機能します。	相談事には、常時対応できるように努めている。特に個別支援計画作成時の面談では、日常の話や個性の高い話ができるよう環境や体制も整えている。相談や訴えの内容によっては、複数のスタッフも同席させながら、広い視野で、利用者の課題解決等に対応してきた。
③利用者や家族の意向を反映させた「求められている支援（重度化・高齢化・医療的ケア）や体制」を構築します。	医療体制やサービス体制については、本人、家族からの希望を伺いながら、対応を検討している。また、必要時にはカンファレンス等で本人、家族はもちろん各専門職を交えて話し合いを行い、体制構築に努めている。今年度は、医療ケアが必要な方の受入れを関係機関との連携により実現した。今回の課題は、医療的ケアが病院では可能としても、施設では体制が難しく、制度の狭間でもある医療課題もあったが、双方の専門職との連携や、施設での受け入れを前提に体制構築することにより、受け入れが実現となった。今後も事例を生かし、次につなげていく。
④利用者の可能性を広げる取り組みや活動の場の拡大を目指し、夕映えの郷との連携により交流の場を広げます。	昨年度からの疥癬や、風邪症状の増加、今年度はコロナウイルス等で、交流を持つことができない環境下にあったため、行事や活動は減少と低下につながった。次年度は、新しい生活様式を取り入れ、感染状況を踏まえた体制を構築していく。
⑤業務軽減を図る機器やさるなる福祉支援用具の導入により、福祉職の重労働を見直し、一層の効率化と業務軽減を図ります。	センサー等の導入も検討したが、当園の用途や、通信環境等、課題も多く、費用面からも、決定には至らなかった。個別支援計画は、請求ソフトに加算されているシステムはいずれ更新となっていくため、記録ソフトの無料システムに移行を行った。使い勝手の悪い面は、今後業者に交渉していく。

### 1-4-2) 短期入所（ショートステイ）

部門目標：コミュニティ拠点としての施設を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①緊急時や災害時の福祉避難所として機能し、円滑な受け入れ対応を目指します。	コロナウイルスを理由とした緊急的な利用や避難所開設はなかったが、コロナ感染の心配によりキャンセルする方がいた。新規利用者もいたが、本人の事情（緊急時のみの利用。継続的かつ長期的な利用は当初より望まない等）によるものから、単発的な利用が多かった。また、今年度、介護保険移行によりショート利用登録が1名減となったが、緊急時の避難者としては継続登録となった。
②重度の障害がある方や医療的ケアを必要とされる方を支える施設として、行政や相談支援事業所と連携を図り、受け入れ体制を整えます。	医療ケアを要する依頼があり、本人、家族、相談支援事業所等で調整を行った。本人をバックアップする病院を定め、フォロー体制を構築し利用開始することができた。さらにもう1名の医療ケアについては、衛生面や内服に課題があり、行政に働きかけ改善する方向に向かうことができた。今後も専門機関である当園も関わりながら、関係機関と多角的な視点で受け入れ体制を整えていく。
③レスパイト機能だけでなく、将来の施設生活に安心感が持てるよう、	入所待機者として挙がっている方については、短期入所利用につなげている。最近では、待機者が施設入所者や病院入院者というケースが増加しており、入所に備えた利

入所待機の間としても機能します。	用につなげられない実情となっている。しかしながら、昨年2名の新規受入れの方は、医療的ケアも要するため、将来的には、身体障害を主とした当園を入所先として検討するに至った事例につながった。
④数少ない障害者施設としての需要に応えられるよう、利用日程を調整し、多くの方にご利用いただける施設を目指します。	短期入所利用者の入所・入院・介護保険移行等で、稼働率は激減。さらにコロナウイルスでのキャンセルも続き、予約率も低下してる。新規利用者では、知的障害をお持ちの方のケースもあり、障害特性から受け入れが難しいというケースもあったが、従来からの利用者様には希望の添えるよう日程調整を行うことができた。
⑥利用者の多様性（障害種別の多様化・家庭環境の変化・個別の多様な希望など）を受け止め、支援方法を一緒に考えていきます。	知的障害の方も増え、主たる対象者を身体障害者としてきた当園では、新たな障害理解や支援方法の構築が求められている。精神障害の方については、活動の幅があり、当園の医療行為や重度対応とはまた違った支援を要する。今後も主治医や夕映えの郷からもアドバイスをもらいながら、対応を検討していく。

### 1-5) 管理課

部門目標：利用者と職員が「安全・安心・快適」に過ごせるサービスの提供と職場環境づくりに努めます。「効率・効果的な経営」を行うよう業務改善を行い利用者のサービス向上に努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
①施設利用者が安心・安全・快適に生活ができる、職員が働きやすい職場環境になるようなサービスと環境整備に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通所部門の職域から送迎時の暑さ対策として、職員ユニホームについて新たに七分丈ズボン希望との要望が上がり、6月の衛生委員会で協議し今年度のユニホーム貸与から取り入れることにした。</li> <li>・コロナウイルス等の感染症対策とし他職種と連携し手摺やドアノブの消毒を行う等している。</li> <li>・ガラス拭きを定期的に行うよう他職種と連携し施設環境整備に努めている。</li> <li>・食中毒予防研修会を6月17日に開催。栄養士が職員に食中毒とノロウイルスの症状や感染経路について説明し利用者への安全なサービス提供に努めた。</li> <li>・家族面会時における感染対策として、面談室に透明ビニールカーテンを取り付け感染に対し安心しカーテン越しで利用者と面会できるよう整備した。</li> <li>・安定した湯を提供できるよう、旧館機械室の給湯ヘッダーを更新90.2万円、新館ボイラー給湯用温ヒーター修理30.8万円</li> <li>・機械室の電子式水道メータを更新することで均一な薬量で安全な湯水を供給できるようにした。51.7万円</li> <li>・障害部門、介護ロボットベッドを1台購入し職員の業務軽減と利用者負担軽減に努めた。92万円（内73.7万円 真柄福祉財団補助）</li> <li>・高齢部門、低床ベッド2台購入(入替)61.1万円と移動サポートロボット1台購入により、職員の業務軽減と利用者負担軽減に努めた。92万円(新潟県介護ロボット補助金より)</li> <li>・職員から館内の湿度が高く過ごしにくいとの話を受け、衛生委員会で湿度調査を行い結果報告と併せて湿度の基準について理解を深めた。</li> <li>・高齢部門にて経年劣化等により車いす6台購入23.2万円</li> <li>・コロナウイルス等感染予防の一環としてコロナ支援金にて施設整備の実施。送迎車輛1台入替227万円、厨房消毒用に電解水生成装置購入92.8万円、パソコン3台51.2万円、サイドテーブル12台48.1万円。正面玄関入口に赤外線体温計設置21.4万円、記録の電子化連動対応血圧計6台16万円。</li> <li>・施設ロビー、ダイルーム等に感染対策として飛沫防止パネルやビニールカーテンの設置。</li> </ul>

<p>②利用者の声に耳を傾け、食事に対する満足度を高めています。(利用者に寄り添う、食事提供に努めます。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢部門にて経年劣化によるベッド1台を、低床ベッドに入れ替えた 30.5 万円</li> <li>・毎月 1 回利用者選択メニューを取り入れ、利用者に寄り添うメニューづくりに努めている。(7月「うなぎ蒲焼」「焼肉」)</li> <li>・職域より厨房に『コロナに負けるな食』を出してほしいと要望あり。8月7日昼食に入れる計画をした。(太巻き、アイスなど)</li> <li>・9月に敬老会お祝い膳を提供し、利用者には喜ばれる食事づくりに努めた。</li> <li>・10月に施設利用者の給食嗜好調査を実施した。調査結果を今後の食事提供に活かし利用者の満足度を高めるよう努める。</li> <li>・12月にリクエスト食である生寿司を提供し利用者の満足度を高めるよう努めた。</li> <li>・お正月には、食べられる利用者へスライス餅を提供し、利用者には寄り添う食事提供に努めた。</li> <li>・定期的に選択メニューや、郷土食メニューを取り入れ利用者の声に耳を傾け満足度を高めるよう努めている。</li> </ul>
<p>③安定的・発展的な事業経営ができるよう、業務の改善に努めます。また大規模修繕を効率的・効果的に行うよう計画的に対応します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費に対しコスト意識を持ってもらうよう、ガス・水道・電気代と使用料について前年比較し資料をもとに職員会議で報告した。</li> <li>・水道節水装置導入によりコスト削減に努めている。6月の定期メンテナンスと報告により装置導入前と導入後の効果データをもとに確認した。(60ヶ月で約316万円利益)</li> <li>・厨房では調理員育休にて人員不足のところ、業務改善を行い介護職員の協力を得ながらサービスの向上に努めている。</li> <li>・収入が減ったことで管理課では備品の入替や施設の改修、消耗品の購入について見直しを行った。それぞれ、現場と調整し経費削減に努めている。</li> <li>・夏場館内の空調調整、施設利用率の変動により節電となった。(4-9月 ガス料金前年比較△110.2万円)</li> <li>・10月の施設電気年次点検と同時に電気引き込み設備(高圧気中開閉器)の入替を行うことで停電時間を最小限とし業務の効率化を図った 96.5万円</li> <li>・施設稼働率減により施設整備の見直しを行い、タンス、ベッドを計画的な入替から修理対応することでコスト削減に努めた。ベッド23台修理費約100万円(購入の場合約30万円/1台)</li> <li>・計画的な備品の入替や整備について、コロナ支援金を活用することで効率効果的な経営に努めた。</li> <li>・施設誘導灯のLED化について2ケ年計画とし今年度132万円工事費用で完了。</li> <li>・障害部門、経年劣化により特浴入替866.8万円、納品工事においては短時間で設置できるよう連携調整を行う。</li> </ul>
<p>④職員一人ひとりが生き生きと働けるよう、職員の健康と精神的健康の増進を図り活力ある組織づくりを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月衛生委員会にて1月付与の有給休暇について半年経過することから、年5日有給取得義務者について計画的消化を視野に入れて確認するよう注意呼びかけ実施。</li> <li>・6月夜勤者職員定期健康診断の実施46名。</li> <li>・6月高齢部門にて労働災害2件発生。(転倒による打撲、利用者から打撲を受ける)各職域にて情報共有し再発防止に努めた。</li> <li>・7月高齢部門にて労災1件発生。(介助中にぎっくり腰)各職域にて情報共有し再発防止に努めた。</li> <li>・全国安全週間7月に部署ごとに「職場安全衛生チェック」を行い職員が安全で衛生的に働ける職場環境であるかチェックを実施、9月の衛生委員会で集計結果を報告、設備に関することは保安と協力し改善を行った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月高齢部門にて労災1件発生。(浴室掃除ストレッチャー移動によるケガ)各職域にて情報共有し再発防止に努めた。</li> <li>・11月に職員定期健康診断を実施、併せてストレスチェックを実施。健診による密を避けるために通常2日間の健診日を3日に分け実施した。</li> <li>・職員のインフルエンザ予防接種に際し、早めの接種の呼びかけとともに、各病院の予約情報や料金について職員間で情報共有出来るよう情報管理を行った。</li> <li>・衛生委員会にて「コロナ禍における職員のメンタルヘルスサポート」について情報共有を行った。</li> <li>・3月障害部門にて労災1件発生。(ベッドから車いす移動介助中、肩挫傷)各職域にて情報共有し再発防止に努めた。</li> <li>・3月に外部講師によるメンタルヘルス研修を実施、内容「ハラスメントについて」参加者28名。</li> </ul>
--	---

### 1-5-1) 厨房

部門目標：「食べる喜び」を感じて頂き、おいしく安全な食事の提供に努めます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①他職種との連絡調整を密にし、職員が余裕を持って働ける環境と業務内容を整え、利用者のサービス向上(創意・工夫)につながるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育休で1名欠員の状況をシルバー人材センターと期間限定の短時間パートの方々に協力していただき業務を滞りなく行うことができています。介護職の方々にも下膳等の協力を依頼している。今後も事故の無い様に注意し、利用者のサービス向上に努めていきたい。</li> <li>・コロナ対策でマスク着用となっているため、夏季の高温多湿の厨房内環境で職員の体調不良回避目的でフェイスシールドを導入した。</li> <li>・11/12に口腔ケア研修会を開催した。</li> </ul>
②選択メニューや郷土食、新メニューなど楽しみにしていただける食事を心がけます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢介護課相談室より『コロナに負けるな食』を出してほしいと要望あり。8月7日昼食に入れる予定。(太巻き、アイスなど)</li> <li>・9/13に敬老会のお祝い膳を提供し喜ばれた。</li> <li>・10月に嗜好調査を行い191名から回答をいただいた。半数以上の方から満足していただいていることが分かった。</li> <li>・11/27に広島県の郷土食『呉の肉じゃが』を提供した。</li> <li>・11/30に川渡餅を提供した。</li> <li>・12/18にさいはま園のリクエスト食として生寿司を提供した。</li> <li>・献立表に主菜の代替え食を記載することにした。</li> <li>・お正月に食べられる方のみスライス餅を提供した。</li> <li>・1/25に選択メニューの一環として生寿司を提供した。</li> <li>・1/21に沖縄県の郷土食『ソーキそば』を提供した。</li> <li>・3/29に高知県の郷土食『カツオの角煮』を提供した。</li> </ul>
③衛生管理を徹底し食中毒を予防します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食中毒予防研修会が6月17日に開催。栄養士が食中毒とノロウィルスの症状や感染経路について説明した。</li> <li>・洗米機の故障により6月に入替を行った。79.2万円</li> <li>・冷蔵庫と冷凍庫の故障により6月に入れ替えを行った。21.7万円、20.4万円</li> <li>・プレハブ冷凍冷蔵庫のユニット故障により入れ替えを行った。129.5万円</li> <li>・11/26に電解水発生装置を設置した。</li> </ul>

### 1-5-2) 事務

部門目標：安定的・発展的経営ができるよう業務改善に努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
<p>①光熱水費や経費の削減を効率・効果的に行うよう努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の職員会議で年間の水道光熱水費の金額と使用料について月別前年比較した資料配布、夏場の冷房使用に伴いコスト意識を持ってもらうよう働きかけた。</li> <li>・水道節水装置の定期メンテナンスを6月に実施し、節水効果を装置導入前と導入後の効果データをもとに確認した。</li> <li>・夏場館内の冷房が効きすぎている部署があるとの話を受け、業者を通して館内の空調温度の調整を行い冷房管理の効率化に努めた。(室温を1℃上げるために空調冷温水を5度上げた。)</li> <li>・消耗品においてはコスト削減の観点から業者との窓口となり紙おむつの見直しを現場に提案した。</li> <li>・ベッドを計画的な入替から修理対応することでコスト削減に努めた。23台修理費約100万円(購入の場合約30万円/1台)</li> <li>・消耗品においてはコスト削減の観点から食器洗剤、除菌剤、モップの見直しを業者との窓口となり現場に提案し、除菌剤についてコスト削減を図ることができた。</li> </ul>
<p>②情報の共有、業務分担の見直しを行い円滑・迅速な外部対応と効率的な業務を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な散髪利用人数を把握するため、6月から現場職員の協力を得て散髪当日に業者へ利用者名簿を提出してもらい、業者より帰りに事務所に名簿を提出してもらうことで正確な利用人数を把握できるようにした。</li> <li>・給与担当が変わったことで、給与データの集計・データ入力ミスを防ぐよう業務の見直しを行った。</li> <li>・コロナウィルスの影響で衛生消耗品等が不足の事態とならないよう、備品発注担当者と現場職員とが連携をとりながら消耗品の手配を行っている。</li> <li>・郵便物の受け渡しに際し、書留書類は受け渡し簿に記録をとり正確な事務処理を行うようにした。</li> <li>・施設封筒の窓空き部分のレイアウトを変更し、利用料請求書のレイアウトに合わせることで請求書発送業務の効率化を図った。</li> <li>・利用料請求業務について、相談職と協力し既存の請求システムと全銀引落システムを連動させることで、正確で効率的な業務改善ができた。</li> <li>・各職域と連携体制を密にして利用者のオンライン面会に迅速な対応ができるよう努めた。</li> </ul>
<p>③他職種と連携し職員と利用者が安全で快適な環境づくりに努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消耗品等備品の受け渡しに際し、6月から現場のレターケースに札を入れることで現場職員との備品の受け渡しを迅速に行えるようになった。</li> <li>・コロナウィルス対応とし受付担当者が検温する、取引業者の入館を必要最低限にした対応をする等現場と連携し感染防止に努めている。</li> <li>・安全運転の啓発として、車両事故報告書を各職域の運転手にも回覧し、事故の情報を共有することにした。</li> <li>・大雪による公用車と自家用車の駐車スペースの確保について、夕映えの郷、除雪業者の協力を得ながら安全に配慮した駐車場整備に努めた。</li> <li>・衛生委員会にて冬季労働災害の特徴や、降雪時の安全運転について情報共有し安全対策に努めた。</li> </ul>

### 1-5-3) 保安、宿直、清掃

部門目標：利用者と職員が安心・安全・快適に過ごせるよう各職種間と連携を取り効率・効果的な業務に努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
<p>①保守・修繕・清掃において職種間と連携し、効率効果的な業務に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある職員が居室清掃を行う際、どのように利用者とコミュニケーションをとれば清掃業務をスムーズに行えるか、5月に介護現場に相談し利用者に説明し理解を得ながら清掃業務を行うことにした。</li> <li>・2階ベランダ花壇の整備について、5月に職員からの意見を担当部署に伝え利用者または運転員から整備してもらった。</li> <li>・6月～7月に外物置に不用なものがないか各職域と確認し備品を整理、不用品を廃棄処分した。</li> <li>・デイサービスの浴槽修理に際し、浴槽が使用できない期間が生じることから工事関係者と保安員、介護担当者と連携し7月に工事日程等を調整しながら修理を終えた。57.5万円</li> <li>・タンスの入替について、当初定期的な入替を検討していたが、保安員が修理することで継続して使用できる状態となることから順次修理を行った。</li> <li>・清掃部門ではご利用者の体調状態や感染リスクを加味しどのような清掃を行うかを介護現場と連携を取り、見える化し効率化を図った。</li> <li>・大雪により公用車の破損が多く生じた。ワイパー折れの修理等を優先的に行い、こみや傷は、雪による事故や破損が発生しない時季にまとめて修理することを計画した。</li> <li>・ボイラー修理の際は、湯水が使用できない時間帯を事前に現場に周知する等連携を取り業務に支障が出ないよう努めた。</li> </ul>
<p>②設備機器の更新や保守に際し、効率化が図られるよう努めます。また大規模修繕を効率・効果的に行うよう計画的に対応します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厨房業務用冷蔵冷凍庫が7月に故障し応急的な修理を施した。今後の使用について数年先まで見据えて修理か入替かを検討中。</li> <li>・施設照明経年劣化による入替に際し、数年間に渡り計画的に予算計上し照明設備LED化工事を実施。予算100万円</li> <li>・ベッドの入替について20年経過もあり、数年を要し定期的な入替を検討していたが、経費削減の観点から部分修理で使用できないか業者による調査を実施した。今年度は修理でしばらく使用できるか様子を見る。見積690万円→150万円</li> <li>・厨房プレハブ冷凍冷蔵庫のユニット故障により、過去の修理状況と今後の修理を見極めた結果入れ替えとした。129.5万円</li> <li>・LED照明化の今年度計画分について、コロナ禍と業者都合により今年度実施することができず、次年度に先送りすることにした。</li> <li>・施設介護現場のPHSバッテリーの交換時期にきており、保安で台数分を発注し、状況をみながら順次交換ができるよう準備手配した。</li> </ul>
<p>③安全と清潔を心がけ、利用者と職員が快適に過ごせる環境づくりに努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浴槽用ろ過材が経年劣化により交換時期に来ていることが5月に判明、6月に交換。18万円</li> <li>・感染症対策とし運転員からの協力を得て定期的に手すりやドアノブの消毒を行っている。</li> <li>・施設のガラス拭きを保安員と運転員が連携し時期を決めて計画的に行うこととした。(年2回程度)</li> <li>・新規入所者の要望に沿うよう保安員が居室の照明度の調整を行った。</li> <li>・7月に部署ごとに「職場安全衛生チェック」の結果をもとに、保安員が必要カ所を確認し修繕等を行い安全管理に努めた。</li> <li>・運転員の協力を得て、職員駐車場の枝木伐採を行う等の環境整備に努めた。</li> <li>・全館のエアコンのフィルター清掃を定期的に行うことで、衛生的な環境づくりに</li> </ul>

	<p>努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・浄化槽の蓋の歪みを防止しと通行車両の安全を確保するために侵入禁止エリアをつくり通行車両の安全と設備保護に努めた。</li><li>・保安では感染対策として現場と連携をとり、施設ロビー、デイルーム等に感染対策として飛沫防止パネルの設置整備を行った。</li></ul>
--	--

令和2年度事業別利用実績

1. 高齢福祉部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		延人数	要介護1	150	155	150	155	155	150	155	150	155	155	140
要介護2	150		155	150	155	155	150	155	150	155	155	140	155	1,825
要介護3	793		819	814	850	932	923	922	894	902	939	864	961	10,613
要介護4	730		685	652	683	679	660	661	630	632	639	629	713	7,993
要介護5	1,038		1,122	1,122	1,170	1,208	1,116	1,149	1,133	1,179	1,146	1,032	1,147	13,562
合計	2,861		2,936	2,888	3,013	3,129	2,999	3,042	2,957	3,023	3,034	2,805	3,131	35,818
実人数	要介護1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	要介護2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	要介護3	28	28	28	30	31	31	32	31	31	32	31	31	364
	要介護4	27	23	23	23	22	22	22	21	22	21	23	23	272
	要介護5	36	38	40	40	40	39	38	39	41	37	37	37	462
	合計	101	99	101	103	103	102	102	101	104	100	101	101	1,218
運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
利用率(%)		91.7	91.1	92.6	93.5	97.1	96.1	94.4	94.8	93.8	94.1	96.3	97.1	94.4
平均要介護度		3.82	3.84	3.85	3.85	3.84	3.81	3.82	3.83	3.84	3.81	3.81	3.81	3.83

<通所介護・総合事業:デイサービスセンターゆりかご荘>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		延人数	事業対象者	34	34	34	37	21	23	24	22	19	11	19
要支援1	41		38	36	28	25	24	29	25	22	11	11	16	306
要支援2	34		23	38	62	51	61	57	54	75	39	77	102	673
要介護1	243		233	246	247	243	252	259	243	261	175	231	268	2,901
要介護2	199		204	234	259	241	213	241	220	235	130	185	200	2,561
要介護3	85		99	109	120	115	127	146	125	122	75	110	135	1,368
要介護4	43		37	33	27	38	44	36	28	35	17	25	32	395
要介護5	38		22	15	14	14	13	13	11	20	13	25	24	222
合計	717	690	745	794	748	757	805	728	789	471	683	801	8,728	
実人数	事業対象者	6	7	8	7	5	6	6	5	4	3	4	5	66
	要支援1	10	8	6	5	5	5	5	5	4	4	3	4	64
	要支援2	6	5	7	10	10	9	8	10	12	10	14	15	116
	要介護1	28	26	29	30	31	31	29	28	27	28	27	28	342
	要介護2	21	23	24	27	27	25	26	28	27	24	24	22	298
	要介護3	10	10	12	12	12	12	16	14	14	13	14	15	154
	要介護4	5	4	4	4	5	5	5	4	6	6	5	5	58
	要介護5	4	3	2	2	2	2	3	3	4	3	4	4	36
合計	90	86	92	97	97	95	98	97	98	91	95	98	1,134	
運営日数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	26	24	27	313	
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	事業対象者	1.3	1.3	1.3	1.4	0.8	0.9	0.9	0.9	0.7	0.4	0.8	0.9	1.0
	要支援	2.9	2.3	2.8	3.3	2.9	3.3	3.2	3.2	3.6	1.9	3.7	4.4	3.1
	要介護	23.4	22.9	24.5	24.7	25.0	25.0	25.7	25.1	24.9	15.8	24.0	24.4	23.8
	合計	26.3	25.2	27.3	28.0	28.0	28.2	28.9	28.2	28.5	17.7	27.7	28.8	26.9
利用率(%)		74.5	71.7	77.4	79.5	77.8	78.7	80.6	78.7	79.0	49.0	76.9	80.2	75.4
平均要介護度		1.82	1.79	1.74	1.73	1.81	1.81	1.81	1.77	1.80	1.78	1.81	1.78	1.79
* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算														
1.91														

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		延人数	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	20		17	22	25	29	34	39	29	30	43	53	50	391
要介護2	49		68	73	73	89	96	61	72	57	96	81	64	879
要介護3	69		75	78	62	49	36	52	118	133	135	113	137	1,057
要介護4	49		73	55	56	68	57	59	51	63	52	55	60	698
要介護5	11		18	10	12	13	29	41	39	29	9	17	14	242
合計	198		251	238	228	248	252	252	309	312	335	319	325	3,267
実人数	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護1	4	4	6	5	7	6	7	6	8	6	9	6	74
	要介護2	5	8	9	9	11	11	11	13	11	8	10	9	115
	要介護3	8	7	7	7	7	6	7	11	10	9	9	10	98
	要介護4	4	6	5	5	4	4	4	5	5	4	4	5	55
	要介護5	2	4	2	2	2	3	3	3	4	2	3	2	32
合計	23	29	29	28	31	30	32	38	38	29	35	32	374	
運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	要支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要介護	6.6	8.1	7.9	7.4	8.0	8.4	8.1	10.3	10.1	10.8	11.4	10.5	9.0
合計	6.6	8.1	7.9	7.4	8.0	8.4	8.1	10.3	10.1	10.8	11.4	10.5	9.0	
利用率(%)		55.0	67.5	66.1	61.3	66.7	70.0	67.7	85.8	83.9	90.1	94.9	87.4	74.6
平均要介護度		2.91	3.03	2.82	2.81	2.79	2.81	3.01	3.00	3.01	2.67	2.69	2.77	2.85
* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算														
2.85														

<居宅介護支援:しおさいの里居宅介護支援事業所>

実人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		事業対象者	6	7	8	8	6	7	6	7	6	6	6	6
	要支援1	8	8	8	7	7	8	8	8	8	8	7	7	92
	要支援2	11	10	12	13	13	14	14	13	13	12	13	14	152
	要介護1	49	45	49	51	52	54	55	55	57	55	57	58	637
	要介護2	28	28	28	33	33	34	34	33	33	33	32	31	380
	要介護3	19	20	21	21	20	18	19	20	21	22	22	23	246
	要介護4	12	12	12	12	12	12	12	11	11	9	7	5	127
	要介護5	3	4	4	3	3	3	3	2	2	2	3	3	35
	合計	136	134	142	148	146	150	151	149	151	147	147	146	1,747
	平均要介護度	1.76	1.81	1.77	1.75	1.76	1.71	1.72	1.68	1.70	1.69	1.67	1.65	1.72

(前年度1.64)

\* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

<介護予防支援:しおさいの里地域包括支援センター>

実人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		事業対象者	30	28	31	33	31	36	32	32	32	30	26	28
	要支援1	43	45	45	44	42	40	39	38	37	36	39	45	493
	要支援2	48	44	49	49	43	55	47	51	55	50	58	67	616
	合計	121	117	125	126	116	131	118	121	122	112	125	140	1,474
	平均要介護度	0.53	0.52	0.53	0.52	0.51	0.53	0.52	0.54	0.56	0.57	0.58	0.60	0.54

(前年度 0.64)

\* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

2. 障害支援部門

<障害者支援施設さいはま園:生活介護>

延人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分4	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	23	20	23	269
区分5	66	69	66	69	92	88	92	88	92	92	92	80	92	986
区分6	338	326	325	338	320	308	327	305	317	322	280	335	381	3,841
合計	426	418	413	430	435	418	442	415	432	437	380	450	5,096	
実人数	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分5	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	44
	区分6	16	15	15	16	14	14	15	14	14	14	14	15	176
	合計	20	19	19	20	19	19	20	19	19	19	19	19	20
運営日数		22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
利用率(%)		96.8	90.9	93.9	93.5	94.6	95.0	96.1	94.3	93.9	95.0	95.0	97.8	94.7
平均障害程度区分		5.74	5.72	5.73	5.73	5.68	5.68	5.69	5.68	5.68	5.68	5.68	5.69	5.70

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援>

延人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分3以上	570	562	549	567	579	570	594	559	576	584	532	594
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用率(%)		95.0	90.6	91.5	91.5	93.4	95.0	95.8	93.2	92.9	94.2	95.0	95.8	93.6

<障害者支援施設さいはま園:短期入所>

延人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	0	0	0	0	7	0	0	0	0	21	31	28	31	118
区分3	0	0	0	0	0	0	0	3	1	15	2	2	4	27
区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分5	7	14	30	26	2	4	4	2	10	5	2	108		
区分6	15	14	18	12	21	17	19	16	18	14	20	12	196	
区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		22	28	48	38	30	19	26	21	56	57	55	49	449
実人数	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	7
	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16
	区分6	4	3	3	3	3	3	3	4	3	4	2	4	39
	区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		6	5	5	5	4	4	6	5	8	5	7	6	66
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	障害者	0.7	0.9	1.6	1.2	1.0	0.6	0.8	0.7	1.8	1.8	2.0	1.6	1.2
	障害児	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	0.7	0.9	1.6	1.2	1.0	0.6	0.8	0.7	1.8	1.8	2.0	1.6	1.2
利用率(%)		36.7	45.2	80.0	61.3	48.4	31.7	41.9	35.0	90.3	91.9	98.2	79.0	61.5
平均障害程度区分 (障害児除く)		5.68	5.50	5.38	5.32	5.00	5.89	5.50	5.67	3.66	3.54	3.76	3.18	4.53

## 年度別利用率の推移(過去10年間)

### 1. 高齢部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里> 定員:104人

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	34,745	34,987	35,060	35,599	36,671	36,601	37,044	36,556	36,469	35,818
1日平均利用者数(人)	94.9	95.9	96.1	97.5	100.2	100.2	101.5	100.2	99.6	98.1
利用率(%)	94.9	95.9	96.1	97.5	97.6	96.4	97.6	96.3	95.8	94.4
平均要介護度	4.12	3.94	3.86	3.72	3.69	3.75	3.82	3.83	3.86	3.83

\*平成27年8月1日より100人から104人に定員変更

<(介護予防)通所介護:デイサービスセンターゆりかご荘> 定員:37人

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
運営日数(日)	314	311	313	313	314	313	313	312	314	313
延べ利用者数(人)	7,650	6,628	6,577	6,444	7,380	8,232	7,995	8,356	9,404	8,728
1日平均利用者数(人)	24.4	21.3	21	20.5	23.5	26.3	25.5	26.8	29.9	27.8
利用率(%)	81.2	71	70	68.6	78.3	71.1	69	72.4	80.9	75.4
平均要介護度	2.29	2.56	2.7	2.36	2.35	2.23	2.21	1.98	1.89	1.91
	2.13	2.42	2.54	2.14	2.11	2.09	2.05	1.8	1.72	1.79

\*平成28年4月1日より30人から37人に定員変更

\*平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ> 定員:12人

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	4,326	4,682	4,572	4,934	4,173	4,018	4,077	3,967	3,122	3,267
1日平均利用者数(人)	11.8	12.8	12.5	13.5	11.4	11	11.2	10.9	8.5	8.9
利用率(%)	84.4	91.6	89.5	84.5	85.6	91.7	93.1	90.6	71.1	74.6
平均要介護度	2.81	3.14	3.3	3.1	2.98	2.83	2.87	2.94	2.67	2.85
	2.8	3.12	3.28	3.08	2.93	2.81	2.86	2.9	2.66	2.85

\*平成26年4月1日より14人から16人に定員変更

\*平成27年8月1日より16人から12人に定員変更

\*平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

### 2. 障害部門

<障害者支援施設さいはま園:生活介護> 定員:20人 \*H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
運営日数(日)	270	269	269	269	270	269	269	269	270	269
延べ利用者数(人)	5,312	5,309	5,166	5,212	5,381	5,303	5,182	5,298	4,986	5,096
1日平均利用者数(人)	19.6	19.7	19.2	19.3	19.9	19.7	19.2	19.7	18.5	18.9
利用率(%)	98.4	98.7	96	96.9	99.6	98.6	96.3	98.4	92.3	94.7

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援> 定員:20人 \*H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	7,117	7,125	6,908	6,916	7,128	7,033	6,929	7,094	6,670	6,836
1日平均利用者数(人)	19.4	19.5	18.9	18.9	19.4	19.2	18.9	19.4	18.2	18.7
利用率(%)	97.2	97.6	94.6	94.7	97.4	96.3	94.9	97.2	91.1	93.6

<短期入所:さいはま園ショートステイ> 定員:2人

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	615	428	500	643	667	561	547	659	626	449
1日平均利用者数(人)	1.6	1.1	1.4	1.7	1.8	1.5	1.49	1.8	1.7	1.2
利用率(%)	84	58.6	68.5	88.1	91.1	76.8	74.9	90.3	85.5	61.5

入所利用者の状況(令和3年3月31日現在)

1. 特別養護老人ホーム

しおさいの里(定員:104人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
～59	1	0	1
60～64	1	1	2
65～69	3	1	4
70～74	5	4	9
75～79	2	3	5
80～84	7	14	21
85～89	7	17	24
90～94	2	19	21
95～	0	15	15
合計	28	74	102
平均年齢	78.5	87.9	85.3
最年長	91	106	106
最年少	56	62	56

(2)要介護度

	男性	女性	男女計
要介護1	2	3	5
要介護2	2	2	4
要介護3	8	24	32
要介護4	8	17	25
要介護5	8	28	36
合計	28	74	102

\* 平均要介護度:( 3.8 )

(3)保険者

上越市	(大潟区)	20	99
	(柿崎区)	17	
	(頸城区)	13	
	(吉川区)	5	
	(上記以外)	44	
上越市以外の市町村		3	
合計		102	

2. 障害者支援施設

さいはま園(定員:20人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
～39	2	0	2
40～49	0	1	1
50～59	3	1	4
60～69	8	3	11
70～	1	1	2
合計	14	6	20
平均年齢	58	61.3	59
最年長	72	71	72
最年少	30	48	30

(2)障害程度区分

	男性	女性	男女計
区分1	0	0	0
区分2	0	0	0
区分3	0	0	0
区分4	1	0	1
区分5	3	1	4
区分6	10	5	15
合計	14	6	20

\* 平均障害支援区分:( 5.7 )

(3)保険者

上越市	(大潟区)	4	18
	(柿崎区)	3	
	(頸城区)	1	
	(吉川区)	2	
	(上記以外)	8	
上越市以外の市町村		2	
合計		20	

3. 医療の状況

(1)入院の状況

しおさいの里	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
延べ入院者数(人)	23	27	23	41	22	23	29	29
総入院日数(日)	730	604	546	955	548	427	682	758
平均入院日数(日)	31.7	22.3	23.7	23.2	24.9	18.6	23.5	26.1

さいはま園	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
延べ入院者数(人)	17	21	8	11	14	6	6	6
総入院日数(日)	408	409	184	269	366	185	344	391
平均入院日数(日)	24	19.4	23	24.4	26.1	30.8	57.3	65.2

(2)経管栄養管理が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H24.3.31 現在	H25.3.31 現在	H26.3.31 現在	H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在	H31.3.31 現在	令和 元年度	令和 2年度
22	21	18	14	11	14	12	14	14	17

(3)痰の吸引が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在	H31.3.31 現在	令和 元年度	令和 2年度
28	31	14	37	33	32	35

#### 4. 事故報告等

##### 4-1. 事故報告の状況(報告先:高齢部門・各保険者、障害部門・新潟県)

2年度	特養入所	短期入所	通所介護	障害支援	合計
骨折	3	1	1	0	5
誤薬・誤飲			1	0	1
その他(心原性突然死)	1		0	0	1
計	4	1	2	0	7

元年度	特養入所	短期入所	通所介護	障害支援	合計
	3	1			4
				1	1
					0
	3	1	0	1	5

##### 4-2. 感染症等発生報告

インフルエンザ	利用者	0
	職員	0
感染性胃腸炎	利用者	0
	職員	0

元年度	利用者	1
	職員	11
	利用者	0
	職員	3

#### 5. 退所者の推移

しおさいの里	～平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	累計
施設内で逝去(看取り)	120	24	15	12	14	14	10	12	10	11	18	260
医療機関で逝去	54	3	5	5	5	1	13	2	10	4	3	105
自宅復帰又は自宅で看取り	3				1	1			1		0	6
医療機関等へ転院(長期入院等)	13		1	2	1	1			1		6	25
合計	190	27	21	19	21	17	23	14	22	15	27	396

さいはま園	～平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	累計
施設内で逝去(看取り)	1							1		1		3
医療機関で逝去	4			1	1		2	1		2	2	13
自宅復帰(地域移行)	2											2
医療機関等へ転院(長期入院等)	2		1	1	1							5
合計	9	0	1	2	2	0	2	2	0	3	2	23

#### 6. 入所待機者の状況(過去10年間)

##### (しおさいの里)

	上越市					他市町村	合計
	大潟区	柿崎区	頸城区	吉川区	左記以外		
H24.3.31現在	82	84	56	63	172	10	467
H25.3.31現在	93	94	69	81	205	17	559
H26.3.31現在	95	92	67	88	188	17	547
H27.3.31現在	84	67	48	76	146	15	436
H28.3.31現在	37	35	20	27	71	7	197
H29.3.31現在	44	40	29	24	65	6	208
H30.3.31現在	44	30	23	23	73	6	199
H31.3.31現在	52	49	29	24	77	9	240
R2.3.31現在	47	50	36	17	80	9	239
R3.3.31現在	45	44	38	17	75	10	229

##### (さいはま園)

上越市	他市町村
10	
13	
13	
12	
11	2
12	1
9	1
11	1
11	1
7	1

事業・職種別職員数一覧

R3.3.31現在

職種別	事業別	特養	障害支援	通所介護	地域包括支援	居宅介護支援	合計
統括施設長	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
課長(障害支援:サビ管兼務、地域包括:主任ケアマネ兼務)	正職員	2	1		1		4
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	2	1	0	1	0	4
事務員	正職員		1				1
	臨時職員	1					1
	パート職員	1					1
	合計	2	1	0	0	0	3
生活相談員 (サービス管理責任者、介護職兼務含)	正職員	3		4			7
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	3	0	4	0	0	7
介護支援専門員	正職員	2				4	6
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	2	0	0	0	4	6
社会福祉士	正職員				3		3
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	0	0	0	3	0	3
看護師、准看護師、保健	正職員	3	2		2		7
	臨時職員		1	1			2
	パート職員	3		4			7
	合計	6	3	5	2	0	16
機能訓練員	正職員	1	1	0			2
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	1	0	0	0	2
介護職員(生活支援員)	正職員	47	10	1			58
	臨時職員	7	1	5			13
	パート職員	6	1	1			8
	合計	60	12	7	0	0	79
管理栄養士	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
調理員	正職員	4	2	1			7
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
	合計	5	2	1	0	0	8
施設支援員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	0	0	0	0	0	0
清掃員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	4	1				5
	合計	4	1	0	0	0	5
宿日直代行員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
	合計	1	0	0	0	0	1
保安員	正職員						0
	臨時職員	1					1
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
運転員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	3	1	1			5
	合計	3	1	1	0	0	5
(嘱託医師)	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	②	①				③
	合計	②	①				③
合計	正職員	64	17	6	6	4	97
	臨時職員	9	2	6	0	0	17
	パート職員	19	3	6	0	0	28
	合計	92	22	18	6	4	142

## 職員の動向等

### 1. 採用の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日、令和3年4月1日付採用内定者含む)

採用者数	介護	看護・保健	相談援助	事務	調理			2年度計	元年度	30年度
	8	4	1	1	2			16	15	26

雇用形態	正規	臨時	非常勤	計
	10	1	5	16

採用区分	新卒等	中途	障害者	計
	2	14		16

採用経路	ハローワーク	職員紹介	直接応募	計
	9	1	6	16

### 2. 退職の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

退職者数	介護	看護	相談援助	事務	運転	調理	管理職	2年度計	元年度	30年度
	4	3		1	1	2	1	12	16	23

雇用形態	正規	臨時	非常勤	計
	5	1	6	12

### 3. 安全衛生管理の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

#### 3-1) 職員の平均年齢・性別(令和3年3月31日現在)

職員数	男性	女性	平均年齢	
142名	37名	105名	46.2歳	2年度
144名	38名	106名	46.2歳	元年度
141名	36名	105名	44.9歳	30年度

#### 3-2) 職員健康診断の実施状況

定期健康診断	5月 (夜勤者)	11月 (全職員)	合計
受診者	46	134	180
医師の指示人数	5	66	71
産業医面談実施	0	3	3

#### 3-3) 労働災害発生状況

内容	勤務中	通勤途上	合計
	4	1	5

### 4. 育児休業の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

	女性	配偶者が出産した男性	合計
出産者	5	0	5
育児休業者	5	0	5

### 5. 介護休業の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

介護休業者	女性	男性	合計
	0	0	0

## 令和2年度施設外研修等一覧

日付	研修会・会議名等	主催	場所	参加者	参加人数
5/8	令和2年度障害支援区分認定調査員及び市町村審査会委員研修	新潟県障害福祉課	市内	相談援助	1
6/8~7/3	令和2年度新潟県主任介護支援専門員研修	新潟県介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援	1
7/16~8/3	痰吸引等研修会	上越老人福祉協会	市内	介護	1
7/28	上越地域障がい者雇用支援セミナー(第1回上越圏域就労担当者会議)	障害者就業・生活支援センターさくら	市内	地域包括	2
8/20	主任介護支援専門員フォローアップ研修	新潟県介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援	1
8/31	他法人との合同研修会(精神障がい支援の基本的な提案について)	しおさいの里居宅介護支援事業所	施設内	居宅支援	4
9/8~11/4	新潟県主任介護支援専門員研修	新潟県介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援	1
9/23	パワハラ防止法、同一労働・同一賃金等説明会	新潟労働局雇用環境・均等室	市内	管理課長	1
9/25	第2回上越圏域就労担当者会議	障害者就業・生活支援センターさくら	市内	地域包括	2
9/28	上越市認知症市民講演会「認知症ケアの最前線」	上越市	市内	地域包括	1
10/23	令和2年度第1回新潟県難病医療ネットワーク医療従事者研修会	新潟大学歯医学総合病院	WEB	地域包括	2
10/25	令和2年度コースアドバイザー研修会	上越市青少年健全育成センター	市内	地域包括	1
10/29	上越圏域高次脳機能障害者等支援従事者研修	新潟県糸魚川地域振興局健康福祉部	WEB	地域包括	2
10/30~11/28	令和2年度新潟県介護支援専門員専門(更新)研修Ⅱ	新潟県介護支援専門員協会	市内	地域包括	1
11/2	安全運転管理者等講習	新潟県安全運転管理者協会	市内	施設長	1
11/13	障害福祉と医療の連携に関する意見交換会	上越市福祉課	市内	看護	1
11/中旬	令和2年度自立支援事業従事者養成研修	全国社会福祉協議会	WEB	地域包括	5
11/18	上越市老人ホーム入所判定委員会	上越市社会福祉事務所	市内	在宅課長	1
11/27	応急手当普及員再講習	上越地域消防局	市内	介護	1
12/1	令和2年度コースアドバイザー研修会	上越市青少年健全育成センター	市内	地域包括	1
12/2	令和2年度第2回新潟県難病医療ネットワーク医療従事者研修会	新潟大学歯医学総合病院	WEB	地域包括	2
12/8	応急手当普及員再講習	上越地域消防局	市内	介護	1
12/17	令和2年度第2回上越地域障害者支援施設等入所調整会議	新潟県上越児童・障害者相談センター	市内	障害課長	1
1/19	雇用保険業務の電子申請利用説明会	上越公共職業安定所	市内	事務	1
2/2	介護施設等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する研修会	新潟県	WEB	相談、介護、看護	3
2/2	新型コロナワクチン接種に関する説明会	上越市	市内	高齢課長、障害課長	2
2/3	介護施設等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する研修会	新潟県	WEB	居宅支援	1
3/9	令和2年度上越圏域障害者地域生活支援連絡調整会議	新潟県上越地域振興局健康福祉環境部	メール	施設長	1
3/15	令和3年度介護報酬改定セミナー	全国老人福祉施設協議会	WEB	相談援助	3
3/15	全国老協協経営戦略セミナー-Q&Aセッション(通所等)	全国老人福祉施設協議会	WEB	相談援助	1
					47

## 令和2年度施設内研修等一覧

日付	研修会名	主催・講師(説明者)	備考	参加人数
4月	令和31年度事業計画及び法令遵守に関する職員説明会	しおさいの里重複施設	コロナ禍により書面配布等による	140
6/17	食中毒及びノロウイルス予防に関する研修会	感染症対策委員会	集合研修	15
8/27	認知症ケア向上に関する研修会(パーソン・センタードな関わり~悪性の社会心理学を学ぶ~)	DCUプロジェクト・認知症介護指導者	集合研修	17
9/16	身体拘束廃止・虐待防止研修会(スピーチロック、ストレスチェックとストレスケア)	人権意識向上委員会	集合研修	18
9/24	認知症ケアの基礎を学ぶ~パーソン・センタード・ケア	DCUプロジェクト	集合研修	10
10/22	新型コロナウイルス感染症に関する研修会	感染症対策委員会	集合研修	17
10/29	認知症ケア向上に関する研修会(地域で安心して暮らし続けるために)	DCUプロジェクト・認知症介護実践リーダー	集合研修	20
11/12	口腔ケア研修会(歯周病について)	食事委員会	集合研修(ビデオ視聴)	13
11/18	介護技術向上に関する研修会(持ち上げない介護について)	ケア向上委員会	集合研修	13
1/20	事故防止に関する研修会(法的責任と事故対応)	事故防止安全委員会・あいおいニッセイ同和損保様	集合研修	19
1/28	認知症ケア向上に関する研修会(コロナ禍でのレクリエーション)	DCUプロジェクト	集合研修	13
3/16	メンタルヘルス研修(ハラスメントについて)	衛生委員会・新潟働き方改革推進支援センター社会保険労務士	集合研修	22
11月~3月	事故防止に関する研修会(医療的ケアを行うためのリスクマネジメント)	事故防止安全委員会	各部門内でスライド視聴、レポート	68
6月~3月	身体拘束廃止・虐待防止に関する研修会(基本事項の確認)	人権意識向上委員会	各部門でグループワーク	52
3月	看取りに関する研修会(その人らしさを最後まで支援する)	人権意識向上委員会	各部門で資料配布、レポート	77
				514

## 職員資格取得状況一覧(述ベ数)

資格・免許		令和2年4月1日現在	令和3年4月1日現在	増減
看護・ 機能 訓練等	看護師	8	10	2
	准看護師	5	4	-1
	保健師	0	1	1
	作業療法士	1	1	0
	あんまマッサージ指圧師	1	1	0
	歯科衛生士	1	1	0
	衛生管理者	1	1	0
介護	介護福祉士	78	82	4
	実務者研修(旧ヘルパー1級)	14	14	0
	介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)	36	36	0
	認定特定行為業務従事者(50時間研修修了者)	25	27	2
	認定特定行為業務従事者(14時間研修修了者)	38	39	1
	認知症介護基礎研修修了	4	4	0
	認知症介護実践者研修修了	15	15	0
	認知症介護実践リーダー研修修了	5	5	0
	認知症介護指導者養成研修修了	1	1	0
相談 援助	主任介護支援専門員	3	3	0
	介護支援専門員	22	21	-1
	社会福祉士	9	8	-1
	精神保健福祉士	6	6	0
	サービス管理責任者	6	7	1
	社会福祉主事任用資格	30	29	-1
栄養	管理栄養士	1	1	0
	栄養士	1	1	0
	調理師	8	8	0
計		319	326	7

4月1日付採用内定者含む

## 特別休暇(自己啓発援助制度)の取得状況

資格	休暇申請者数	休暇取得日数(延べ)
介護福祉士	1	3

## 外部実習受入及び地域交流等の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

### 1) 専門実習、福祉体験学習等受入の状況

日付	実習名	依頼元団体	受入部門	人数
8/26	地域包括支援センター実習	新潟県立看護大学	地域包括支援センター	7
9/25、他3回	老年看護学実習	上越看護専門学校	しおさいの里	16
9/28～10/2	介護実習	長岡こども福祉カレッジ	デイサービス	1
11/16～12/4	保育実習	長岡こども福祉カレッジ	さいはま園	1
コロナ禍により毎年定例の実習受入れや交流会の多くが中止となった。(はまっこ保育園、大潟町小学校、大潟町中学校(上越ゆめチャレンジ、奉仕クラブ)等)				25

### 2) イベント開催・参加等の状況

日付	名称(場所)	概要	参加数
6/16他2回	地域サロンへの講師派遣	体力測定や転倒予防の体操、認知症や生活習慣病予防の講話 (地域包括支援センター)	35
2/26	認知症カフェうみまち茶屋への講師派遣	認知症の対応についての講話等	30
	みんなで学ぼう会(認知症ケアに関する研修会)	地域全体の認知症ケア向上の取り組みの一つとして、近隣施設・事業所や地域の方々と共に勉強会を独自で開催	コロナ禍により中止
6月	「第19回ふくしのひろば」(リージョンプラザ上越)への参加	アダプテッド・スポーツ(年齢や障がいに関わらず、誰もが参加できるスポーツ)の体験交流会の実施(さいはま園)	コロナ禍により中止
6月	地域貢献(社会奉仕)活動の実施	犀潟児童遊園の環境整備を実施 (しおさいの里等複合施設・犀潟町内会合同)	コロナ禍により中止
7/10、11/27	施設内訪問衣類販売会	施設利用者に買い物機会の提供	200
7月	「おおがた七夕☆絆まつり」(大潟コミュニティプラザ)への参加	利用者の作品展示、介護相談、福祉用具展示、スポーツの体験会等の開催(夕映えの郷と合同参加)	コロナ禍により中止
	うみまちフリーマーケット	地域住民ならびに団体に施設内を開放し、フリーマーケットを通じた施設と地域との交流を促進	コロナ禍により中止
9月	RUN伴(らんとも)への参加	NPO法人認知症フレンドシップクラブが主催する認知症啓発イベントに法人として参加	コロナ禍により中止
11/13	しおさいの里等複合施設感謝祭	コロナ禍により外部(家族、ボランティア)の方々には招待せず、ご利用者と職員のみで開催	200
8/26他4回	地域ケア推進会議	地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み。障害支援事業所等との連携(地域包括支援センター)	84
			549

### 3) 介護予防事業(ココカラプロジェクト「だんだん広場」)開催状況

クラス名	開催時期	場所	実施回数	延参加人数
火曜クラス	週1回(コロナ禍により各曜日2班体制に変更。各班隔週開催)	しおさいの里ボランティアルーム	22回(前年度40回)	257人(前年度1,202人)
水曜クラス			26回(前年度44回)	364人(前年度1,287人)
木曜クラス			24回(前年度43回)	288人(前年度1,164人)
合計			72回(前年度127回)	909人(前年度3,653人)

#### 4) 上越市地域支え合い事業

(まちづくり大潟委託事業)

日付	名称(場所)	概要	延参加人数
7/27他,全26回	介護予防教室「だんだん広場」水曜クラス	介護予防に筋力維持や改善、認知症予防等を目的とした体操やレクリエーションの実施するとともに、参加者同士が交流することによる生きがいづくりや社会参加促進の取り組みとして実施する	364人

(くびき振興会運営支援)

日付	名称(場所)	概要
6/15他,全6回	新すまいるエイジング	介護予防教室での血圧測定や参加者の様子観察、健康に関する相談等(地域包括支援センター)
コロナ禍により中止	認知症カフェ「あやめ茶屋」	認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い交流を図ったり、認知症について情報交換を行う場(地域包括支援センター)

#### 5) ボランティア受入の状況

延受入回数	2年度:82回 (元年度:209回)	内容:利用者交流(お話等)、織い物、施設行事補助、余興(踊り、唄、太鼓披露等)、園芸、畑、生け花、書道、ハンドマッサージ、介護予防教室運営補助、認知症カフェ運営補助、クラブ活動補助、リネン交換、その他 ⇒コロナ禍により2年度は畑々(はたはた)クラブと介護予防教室の運営補助のみの受入れとなる
延受入人数	2年度:254人 (元年度:703人)	

#### 6) 施設設備・備品等の地域への開放・貸出

コロナ禍等により実績なし
--------------

#### 7) 広報活動等

名称	発行日等	備考
公式ホームページ( <a href="http://www.siosainosato.jp">http://www.siosainosato.jp</a> )	随時更新	年間アクセス数22,556件(月平均1,880アクセス)
広報しおさい	第47号(9月)、第48号(1月)	各回750部作成
あっと・ホーム	毎月1回発行	特養部門ご家族に配布
じよんのび・ネット	毎月1回発行	さいはま園ご家族に配布
ゆりかご通信	毎月1回発行	デイサービスセンターご家族に配布
上越タイムス	年3回掲載(4月、8月、1月)	施設紹介を兼ねた介護特集・協賛広告を掲載
新潟日報朝刊	7月～11月(計5回掲載)	新潟・認知症キャンペーン「オレンジの輪」への協賛広告
地域包括支援センター周知チラシ	4月、12月発行	大潟区・頸城区全戸配布又は町内回覧

#### 8) 面会状況

感染拡大防止対策として居住棟内での面会を禁止(看取り時を除く)し、その代替対応として「玄関ロビーでのビニールカーテン越し面会」や「中庭からのガラス越し面会」「オンライン面会」でご利用者と家族の交流を支援した。(延べ213人)
--

## 苦情解決等の状況

### 1) 苦情受付期間

令和2年4月1日～令和3年3月31日

### 2) 苦情受付件数

年度	2年度	元年度	30年度	29年度	28年度	27年度
件数	4件	2件	7件	6件	4件	2件

(4件の事業別内訳)

複合施設全体	特養(入所)	特養(短期)	通所介護	居宅介護支援	地域包括支援	障害支援	その他
	1件	1件	2件				

### 3) 苦情申出人の状況

	2年度	元年度	30年度	29年度	28年度	27年度
ご利用者本人	1件	1件	2件	3件	2件	2件
ご家族・身元引受人	3件	1件	4件	3件	1件	1件
第三者(介護支援専門員等)	1件	1件	1件	1件	1件	1件

### 4) 苦情の内容

No.1	内容	・ご利用者の病院受診に付き添うためご家族が来所した際、事務所に預けていた健康保険証が所定の保管場所に見当たらず、その際に対応した職員から「(ご家族が)お持ちではありませんか」との話があった。結局、保管庫内を入念に探すと保険証が発見される。このような施設の管理体制や対応に不信を感じた。(特養・入所)
	原因	・保管庫内には利用者毎のフォルダーに保険証を収納しており、当初確認した際は当該ご利用者のフォルダー内に保険証が入っていなかった。その後、保管庫内を入念に確認したところ、他のご利用者のフォルダーとの間に挟まっている保険証を発見した。
	対応	・管理方法と当時の対応の不備について謝罪し、後日、再発防止策として管理方法の見直しを関係職種で行ったことを報告させていただく。
	結果	・申出人よりご理解をいただいた。
No.2	内容	・デイサービス利用時に家族が希望していないのに敵便が行われているので改めてほしい。 ・上着の脱がせ方、衣類の着せ方等、介助を丁寧にやってほしい(ショートステイとデイサービスでの対応が異なる)。
	原因	・敵便については、入浴中に便が出かかっていたため、ご本人に清潔な状態でゆっくりと湯に浸かっていただきたいと考えていたが、説明が至らず「お風呂が汚れるから敵便をした」とご家族に誤解を与えてしまったこと。 ・介助については、部門(デイサービスとショートステイ)間での情報の共有が不足していた。
	対応	・ご家族の希望時以外での敵便は行わない。 ・ショートステイ部門との情報共有を密に行い、ケア向上に努める。
	結果	・謝罪、対応を説明し、申出人よりご理解をいただいた。
No.3	内容	・ショートステイ利用時、トイレで排せつ後、職員から「トイレの水を流さないで」と怒られ、怖い気持ちになりました。
	原因	・水を流さない理由(健康管理上、排せつ状況の把握や確認を行うこと)についての説明が不足していたこと。
	対応	・ご利用者の気持ちになって、言葉選び、声のかけ方、表情等、一つひとつ丁寧な対応を行うことを職員間で再認識する。
	結果	・謝罪、対応を説明し、申出人よりご理解をいただいた。
No.4	内容	・デイサービスからの帰宅後、右すね部に皮膚剥離があることをご家族が発見する。後の利用時、送迎職員にその旨を伝えたと、職員から「デイサービスでの傷ではなく、家での傷ではないか」との説明があったが納得できない。
	原因	・申出人からの意見に対して、事業所に持ち帰って事実関係を確認することをせず、その場で「家に傷の原因がある」と決めつけるような回答をしてしまったこと。
	対応	・謝罪し、移乗方法や皮膚チェックの徹底、送迎時の対応等について再度、提案させていただく。
	結果	・申出人の意向により、当サービスの利用終了となる。

### 5) 意見箱への投稿

・正面玄関ロビーに設置してある意見箱に投函された意見:2件

内容:深夜時の戸の開閉やワゴン車の(車輪)音等、静かに行うよう徹底をお願いしたい。

①総合相談支援

○高齢者相談件数

相談延件数	月平均件数
1,428	119

前年度月平均 140件

○相談経路及び方法

<高齢者相談経路>

	相談延件数	月平均件数
本人	357	30
家族等	476	40
関係機関	556	46
その他	39	3

前年度月平均 53件

前年度月平均 40件

前年度月平均 45件

前年度月平均 2件

<高齢者相談方法>

	相談延件数	月平均件数
電話	819	68
文書	11	1
来所	252	21
訪問	321	27
その他	25	2

前年度月平均 60件

前年度月平均 1件

前年度月平均 23件

前年度月平均 53件

前年度月平均 3件

<高齢者相談内容>

	相談延件数	月平均件数
介護保険	651	54
介護方法や介護の悩み	527	44
認知症に関すること	113	9
医療	501	42
高齢者や介護者の健康	698	58
権利擁護業務	45	4
保健・福祉サービス	265	22
その他	200	17

<高齢者支援方法>

	相談延件数	月平均件数
訪問	398	33
来所	119	10
同行	92	8
電話	434	36
電子メール	5	0
個別支援会議	42	4
関係機関への連絡	617	51
関係機関への相談	260	22
その他	61	5

○障害者相談件数

相談延件数	月平均件数
347	29

26/11

<障害者相談経路>

	相談延件数	月平均件数
本人	140	12
家族等	72	6
関係機関	133	11
その他	2	0

<障害者相談方法>

	相談延件数	月平均件数
電話	184	15
文書	0	0
来所	53	4
訪問	94	8
その他	16	1

<障害者障害種別・相談があったもののみ>

	相談延件数	月平均件数
身体障害	8	1
知的障害	22	2
精神障害	77	6
発達障害	3	0
高次脳機能障害	14	1
ひきこもり	12	1
その他	11	1

<障害者相談内容>

	相談延件数	月平均件数
福祉やサービスの利用	95	8
障害や症状の理解	100	8
健康・医療	167	14
不安の解消・情緒安定	163	14
保育・教育	3	0
家族関係・人間関係	109	9
家計・経済	100	8
生活技術	34	3
就労	116	10
社会参加・余暇活動	30	3
権利擁護	9	1
介護方法や介護の悩み	28	2
引きこもり	27	2
その他	29	2

<障害者支援方法>

	相談延件数	月平均件数
訪問	47	4
来所	26	2
同行	26	2
電話	113	9
電子メール	47	4
個別支援会議	20	2
関係機関への連絡	95	8
関係機関への相談	55	5
その他	7	1

【相談内容】

《高齢者》

「介護保険」「介護方法や介護の悩み」「医療」「高齢者や介護者の健康」が多く、相談を受けると「関係機関への連絡」「電話」「訪問」などでの対応が多かった。

《障害者》

「健康医療」「不安の解消・情緒安定」が多く、次に「福祉やサービスの利用」「障害や症状の理解」「家族関係・人間関係」「家計・経済」「就労」が続いた。対応としては高齢者と同じく「関係機関への連絡」「電話」「訪問」での対応が多かった。

【地域への周知】

- ・地域包括支援センターの役割や活動内容を周知するための広報紙を作成し、5月に大湊区で全戸配布、頸城区で全戸回覧を行った。
- ・コロナの影響で、従来健診会場で行われていた地域包括支援センターの相談コーナー設置やチラシ配布などは出来なかったが、随時包括のチラシやコロナウィルスや健康に関するチラシの配布を行った。

【民生委員・児童委員との連携】

- ・大湊区、頸城区民生委員・児童員協議会の定例会に出席し、地域包括支援センターの取り組みを紹介したり、意見交換を行った。コロナの影響があり、前年度に比べて開催数は少なくなっている。
- ・民生委員から一人暮らし高齢者の相談や対応困難ケースの相談などが随時あり、迅速に対応している。

(1)実態把握(高齢者)

実態把握延件数	月平均件数
847	71

前年度月平均 49件

年間目標650件。達成率は130%

頸城は名簿による訪問が大半を占める。大潟は名簿による訪問と併せ、相談を受けて訪問すると要援護世帯である場合の実態把握も多かった。

②権利擁護

○権利擁護に関する相談(高齢者)

	相談延件数
成年後見等に関する相	29
虐待	7
消費者被害	1
その他	8

○権利擁護に関する相談(障害者)

	相談延件数
成年後見等に関する	6
虐待	1
消費者被害	0
その他	2

【成年後見制度、日常生活自立支援事業】

成年後見等に関する相談のうち、4件の申し立て支援をした。

経済的な事情などで包括が書類を作成したものが2件、司法書士が申し立てをしたものが2件であった。

今後も認知症高齢者の増加や知的障害者、精神障害者の相談窓口として金銭管理や身上監護で支援が必要な場合には制度の説明とともに申し立てが必要な場合には関係者と協力して支援をしていく。

日常生活自立支援事業については、1名が利用につながった。

【高齢者虐待への対応】

実績無し。

上越市の高齢者虐待防止マニュアルに沿って区総合事務所と連携を図り、コアメンバー会議、対応評価会議を実施する。

【困難事例への対応】

高齢者虐待に限らず、介護支援専門員から困難事例の相談があった場合には区総合事務所と情報共有し、連携を図りながら支援を行っている。必要に応じて関係者や関係機関と個別ケース会議を開催するなど多職種協働において支援ができた。

【消費者被害防止】

老人会やサロン等で消費者被害の注意喚起を行い、不審なハガキに気を付けるよう周知している。事実があった場合には、上越市消費生活センターに連絡をした上で、総合事務所と連携し、クーリングオフの手続き等を行う。

③包括的・継続的ケアマネジメント業務

(1)地域ケア推進会議

	開催日	内容	参加人数
第1回	8月26日	地域包括支援センターと相談支援員との連携について	46名
第2回	12月23日	地域包括支援センターの業務について地域の実例をもとにグループワーク	30名

○第1回

「4月以降の各包括の相談体制が変更になり良くなった点とやりにくくなった点」「障害相談支援専門員と地域包括との連携方法についてこれから期待すること」についてグループワークをした。

「相談支援専門員と地域包括支援センターの連携会議を設けながら、支援体制の確認や連携の在り方など、互いの理解を深めていきたい。」との意見を受け、連携会議が数回行われた。今年度は会議は行わず、実際の支援の場面での連携構築を図ってゆく。

○第2回

「令和2年度からの地域包括支援センターの業務と上半期の相談状況について説明。」「意見交換・情報交換:自己紹介、地域の実例を提示して、グループワーク。」

今回は新型コロナ対策のため、参加者を民生・児童委員、主任児童委員とケアマネジャーに限定して実施した。そのことでじっくりと顔を合わせて話ができ、出席者からは「今後の連携につながる」「貴重な機会だ」と評価を得た。会議の目的は達成できたと考える。

(2)介護支援専門員に対する支援

	相談延件数
担当者会議	26
同行訪問	52
単独訪問	3
社会資源の紹介	4
関係機関の調整	29
ケアマネへの研修会	3
本庁・総合事務所への連絡	4
個別支援会議	9
その他	14

(2)相談支援事業所に対する支援

	相談延件数
訪問	7
来所	6
同行	3
電話	16
電子メール	19
個別支援会議	8
関係機関への連絡	5
関係機関への相談	4
その他	3

日頃から介護支援専門員から電話で相談を受けたりすることもあるが、来所時や事業所の訪問時に情報の共有を図ることで連携しやすい関係を構築している。

地域包括支援センター主催でケアマネ連絡会を3回開催した。内容は、「最近の悪徳商法の実態と対策、クーリングオフ制度について」「自殺予防研修会」「高齢者の自立支援を栄養面から考える」であった。

それぞれにおいて様々な感想や気付きがあげられたが、支援対象の身近な高齢者の自立支援を栄養面から考えることは切り口としては新鮮な面もあり、今後もこのような連絡会を継続することの必要性を感じた。

(3)地域ケア個別会議

大湊区と頸城区でそれぞれ1回ずつ、計2回実施した。薬剤師、理学療法士等からの助言を受けることができた。

・薬の効用や副作用の有無は確認していても、薬の特性から考えられる諸症状までは確認できていなかった。本人に合った、よりよい支援をしていくためにも、困りごとに対しそれぞれの領域で専門職の助言が必要だと感じた。

④第1号指定介護予防支援(介護予防マネジメント)

○認定者の状況(令和3年3月末現在)

チェックリスト	認定者数		予防給付		介護予防ケアマネジメント		
	要支援1	要支援2	利用者数	うち委託数	利用者数	うち委託数	
	42	82	161	218	120	73	31

総合事業のみの場合は基本チェックリストを実施し、アセスメントをする中で福祉用具の必要性がある場合には介護保険の申請をするなど自立に向けた支援を段階的に行うようにしている。また、全体の業務バランスを考え、利用者の意向を確認しながら居宅介護支援事業所に委託している。またサービス担当者会議には可能な限り参加し、利用者の情報共有や自立支援について協議するようになった。

大きな問題としては、居宅のマンパワーも限界に近く、予防はおろか要介護者も受けられない事態が年度末から続いている。それにより、包括の抱える件数も徐々に増えており限界に近付いている。

⑤介護予防に関する普及・啓発を行う事業

(2)講師依頼

コロナ禍で大幅に自粛され中止となった。その中でも実施できた数か所では体力測定や予防体操を行ったり、高血圧症などの生活習慣病、認知症に関する講話は寸劇を交え、分かりやすく伝わるように工夫した。参加者から個別に相談を受け、支援につながるが多くなっている。

日程	事業名	参加者数	内容
6月16日	森本町内会サロン	15	健康相談、介護予防体操等
10月21日	下小船津浜いきいきサロン	8	体力測定、新型コロナウイルスの予防
10月22日	坂田茶話会	12	高血圧に関すること、健康体操等
2月26日	うみまち茶屋	30	認知症の対応

令和2年度

# 決算報告書(案)

自：令和 2年4月 1日

至：令和 3年3月31日

高齢福祉しおさいの里	拠点区分
障害支援さいはま園	拠点区分

社会福祉法人上越頸城福祉会